



各 位

2024年2月28日

会 社 名 湖 北 工 業 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 石 井 太
(コード番号:6524 東証スタンダード)
問 合 せ 先 広 報 ・ I R 室 室 長 野 里 浩 平
(TEL: 0749-85-3211)

(訂正)「2023年12月期決算説明資料」の一部訂正について

2024年2月8日に公表致しました「2023年12月期決算説明資料」について記載内容の一部訂正すべき事項がありましたので、お詫び申し上げるとともに下記の通りお知らせいたします。

記

訂正内容

- ・訂正箇所は赤枠で示しております。

(訂正前)

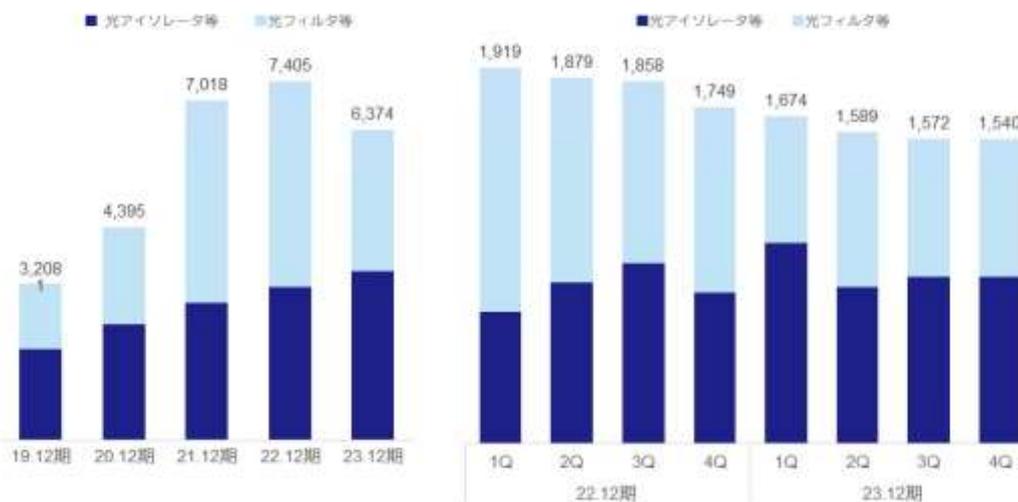
光部品・デバイス事業

セグメント別 製品別売上推移 - 光部品・デバイス

主力の光アイソレータの売上は堅調に推移したが、光フィルタ・光ファイバアレイ製品の売
上がダウン

年間売上高 (百万円)

四半期売上高 (百万円)



(訂正後)

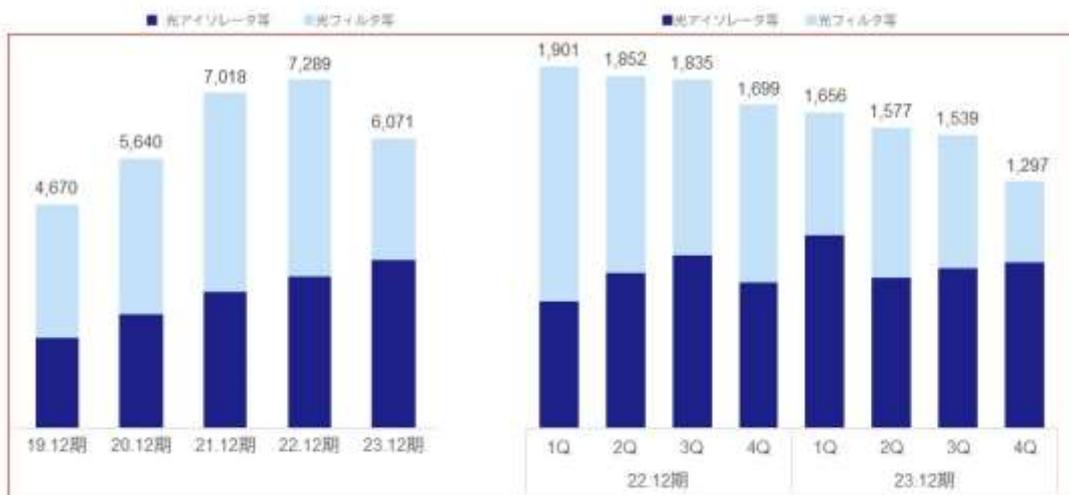
光部品・デバイス事業

製品別売上推移 - 光部品・デバイス

主力の光アイソレータの売上は堅調に推移したが、光フィルタ・光ファイバアレイ製品の売
上がダウン

年間売上高 (百万円)

四半期売上高 (百万円)



世界に誇れる、ものづくり

2023年12月期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2024年2月8日

目次

I.	2023年12月期4Q（累計）決算概況、2024年12月期 業績見通し	P. 2
II.	中期経営計画 成長戦略	P. 11
III.	セグメント別の状況	P. 24
IV.	参考資料	P. 41

I. 2023年12月期4Q（累計）決算概況、 2024年12月期 業績見通し

2023年12月期のハイライト

リード端子事業は自動車向けの在庫調整に加え、ICT・民生向けの数量の落ち込みが特に大きく減収減益

光部品・デバイス事業は主力の光アイソレータが堅調に推移したものの、一部SCM調整の影響を受け、減収減益

● マクロ環境

- ・ 世界経済は、アフターコロナの流れの中、小売・サービス業等の一部で改善の動き
- ・ エネルギー価格の高止まりなどによる物価上昇や、長期化するロシア・ウクライナ情勢の影響
- ・ 中国における消費性向や不動産価格の低迷による景気減速
- ・ 国内経済は、雇用環境の改善や設備投資の回復、株式市場が上昇傾向を辿る等、徐々に明るさが見え始めた

● 事業環境

- ・ EV市場の拡大は続くが、アルミ電解コンデンサなど一部の電子部品については、サプライチェーンの正常化に伴う過剰在庫の調整の影響を受ける
- ・ PCをはじめとする情報通信機器市場などは、厳しい状況が続く
- ・ 海底ケーブル市場向は、一部のプロジェクトのスケジュール変更に伴い部品の在庫調整が発生

● 業績(4Q累計)

- ・ 市場環境悪化の影響を受け、売上は前期比14.0% (△2,200百万円) の減収
- ・ 営業利益については、売上減少をコストダウンで吸収しきれず、前期比27.6% (△1,071百万円) の減益

損益計算書の概要

厳しい事業環境が続き、業績は2023年8月時点の修正予想を下回り減収減益

(単位：百万円)

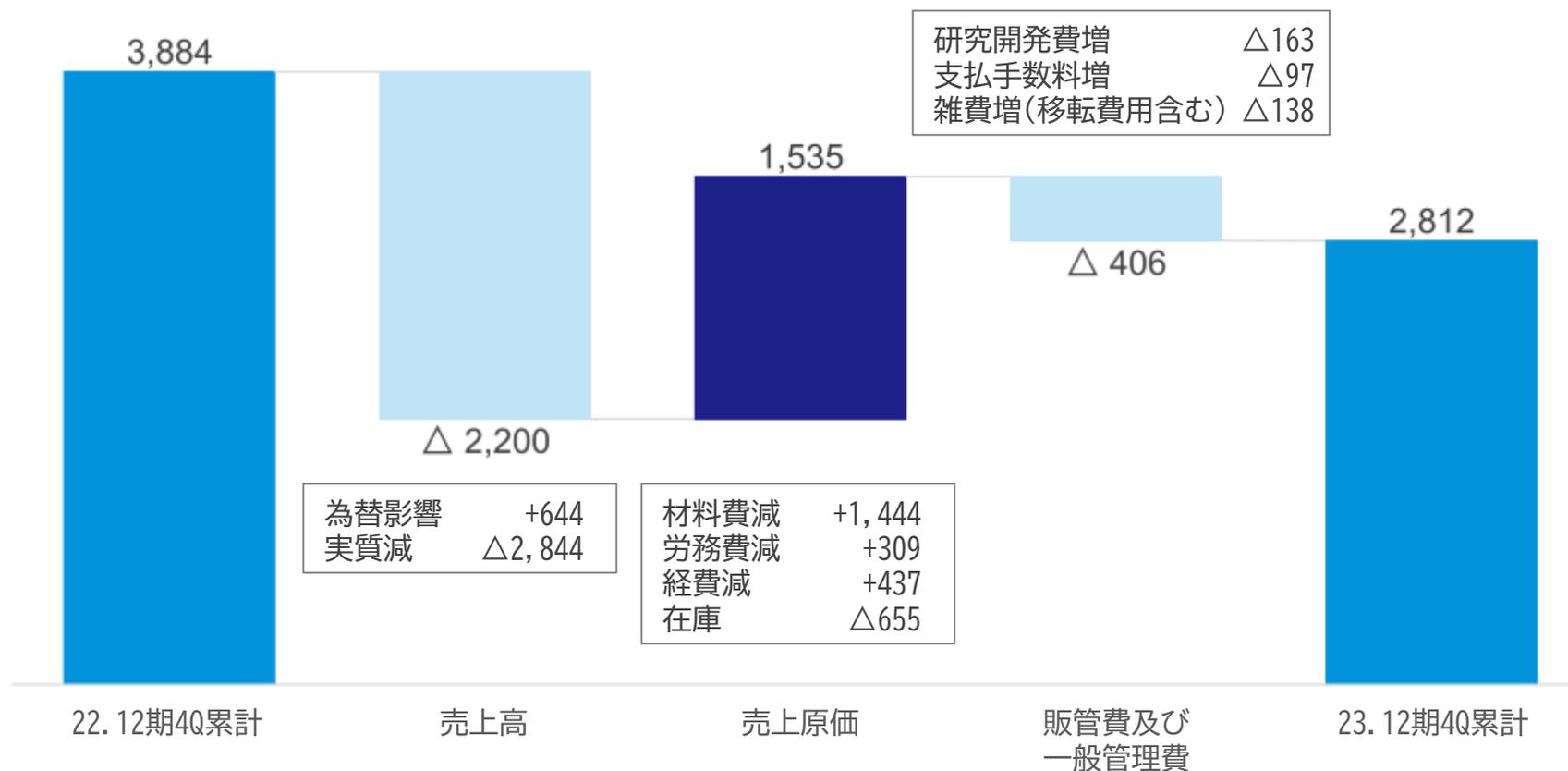
	2022.12期	2023.12期						
	4Q累計	4Q累計	前年同期比		当初予想	8月修正予想	修正予想比 (vs実績)	
売上高	15,673	13,472	△2,200	△14.0%	16,494	14,490	△1,018	△7.0%
リード端子事業	8,384	7,400	△983	△11.7%	9,162	7,508	△107	△1.4%
光部品・デバイス事業	7,289	6,071	△1,217	△16.7%	7,331	6,981	△910	△13.0%
営業利益	3,884	2,812	△1,071	△27.6%	4,121	3,411	△598	△17.6%
営業利益率	24.8%	20.9%	△3.9pt	—	25.0%	23.5%	△2.6pt	—
経常利益	4,443	3,152	△1,291	△29.1%	4,084	3,363	△210	△6.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,066	1,904	△1,162	△37.9%	2,819	2,157	△253	△11.7%
為替レート (期中平均)	131.64円/\$	140.66円/\$						

第4四半期に回復を見込んでいた海底ケーブル用光デバイスが、想定外の落ち込み。売上・利益ともに昨年8月時点の予想よりさらに落ち込んだ

営業利益(4Q累計) の増減要因 (前期比)

円安効果が見られたものの、市場低迷などによる売上減少を吸収しきれず減益

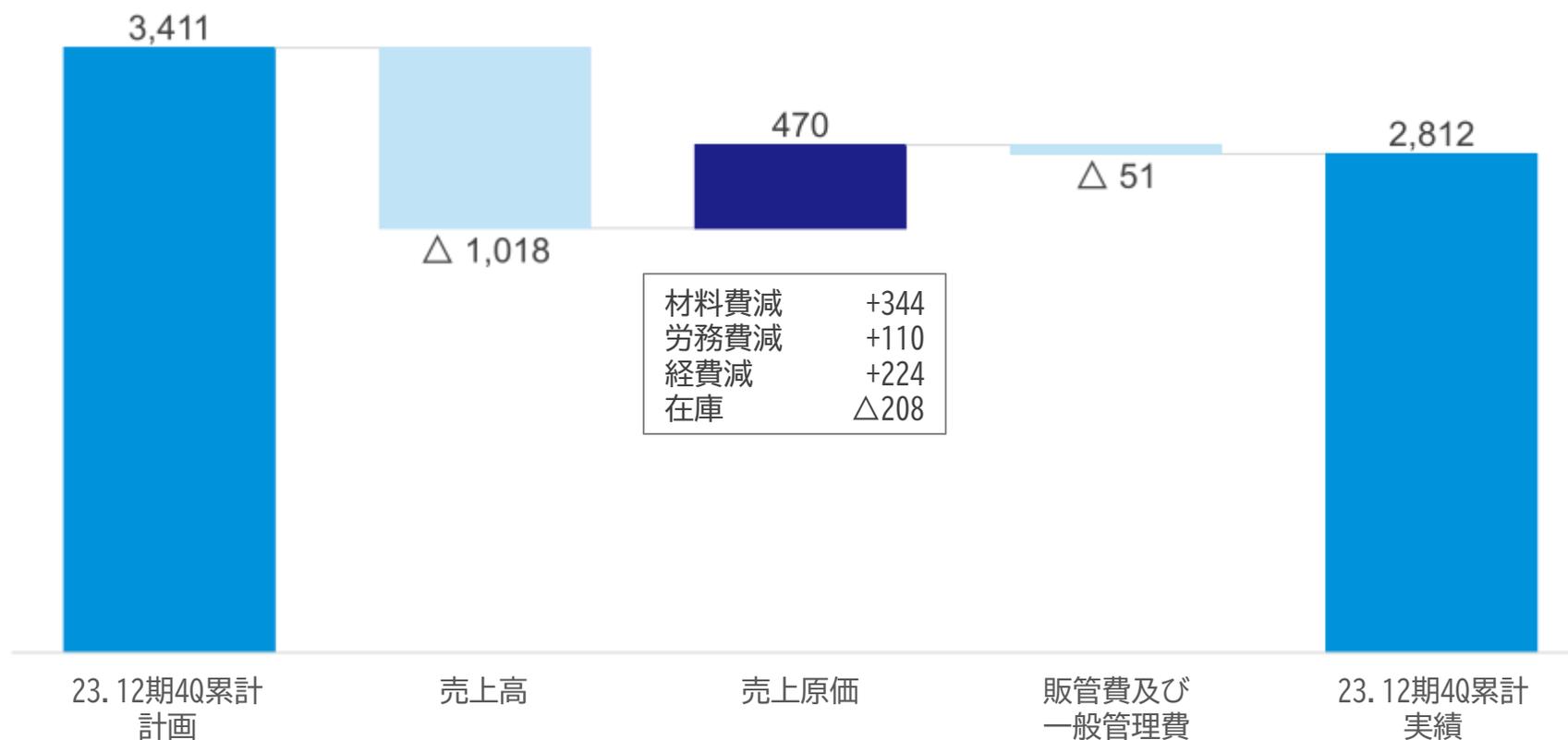
(単位：百万円)



営業利益(4Q累計)の増減要因(修正計画比)

円安傾向が続いたが、光部品・デバイス事業の想定外の売上減少により修正計画比マイナスで着地

(単位：百万円)



貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要

貸借対照表	2022年12月期	2023年12月期	主な増減
流動資産	17,227	16,735	現金及び預金+500 原材料及び貯蔵品△179 受取手形及び売掛金△590 他
固定資産	7,057	8,237	建物及び構築物+447 リース資産+285 建設仮勘定+202 他
資産合計	24,285	24,973	
流動負債	3,375	2,522	未払法人税等△213 買掛金△207 短期借入金△245 他
固定負債	2,613	2,391	リース債務+278 長期借入金△517 他
負債合計	5,988	4,913	
純資産合計	18,296	20,059	利益剰余金+1,409 為替換算調整勘定+348 他
負債・純資産合計	24,285	24,973	
キャッシュ・フロー計算書	2022年12月期	2023年12月期	内訳
営業キャッシュ・フロー	2,755	3,577	
投資キャッシュ・フロー	△1,949	△1,033	有形固定資産の取得△1,438 無形固定資産の取得△170 他
フリーキャッシュ・フロー	806	2,544	
財務キャッシュ・フロー	△2,585	△1,577	長期・短期借入金返済△936他
現金及び現金同等物の増減額	△1,588	△1,076	
現金及び現金同等物の期末残高	9,362	10,439	

2024年12月期業績の見通し

リード端子事業、光部品・デバイス事業ともに売上回復、増収増益を見込む

(単位：百万円)

＜為替感応度＞ 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2023年12月期	2024年12月期（計画）				
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前期増減	前期比
売上高	13,472	6,800	7,736	14,536	+1,063	+7.9%
リード端子事業	7,400	3,701	4,166	7,868	+467	+6.3%
光部品・デバイス事業	6,071	3,098	3,569	6,667	+596	+9.8%
営業利益	2,812	1,427	1,816	3,243	+431	+15.3%
営業利益率	20.9%	20.9%	23.4%	22.3%	+1.4pt	—
リード端子事業	44	47	210	257	+212	+473.5%
光部品・デバイス事業	2,767	1,379	1,606	2,986	+218	+7.9%
経常利益	3,152	1,444	1,840	3,284	+132	+4.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,904	913	1,223	2,136	+232	+11.2%
1株当たり当期純利益（円）	211.64	33.84*	45.33*	79.17*	*1：3の分割考慮後	
為替レート（期中平均）	140.66円/\$	140.00円/\$	140.00円/\$	140.00円/\$		

● 業績予想の根拠

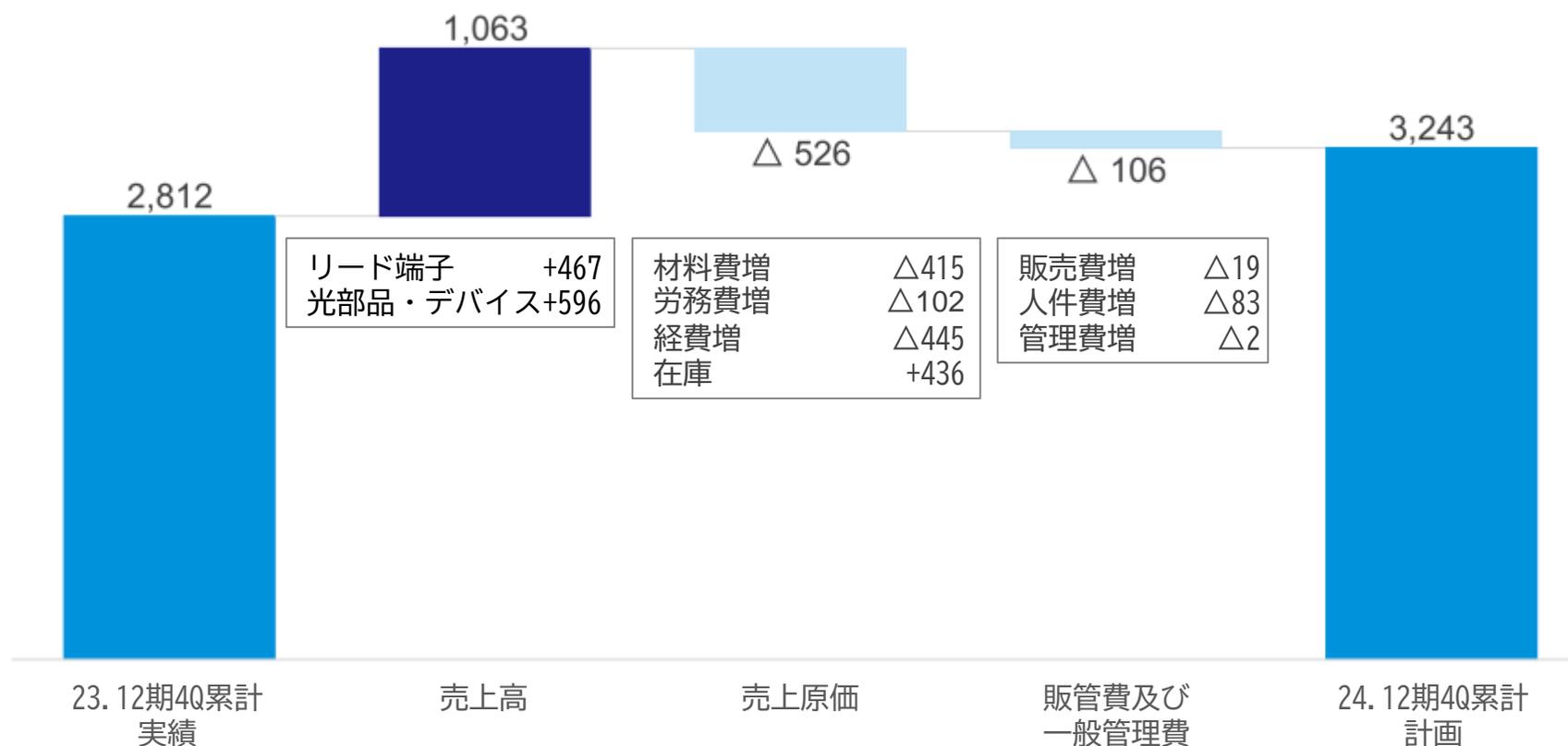
- ・リード端子事業：在庫調整の終了に伴う緩やかな回復を見込む
- ・光部品・デバイス事業：光アイソレータの売上成長と光フィルタの回復を見込む

※＜為替感応度＞は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値です

2024年12月期業績（営業利益）の見通し

2024年後半におけるリード端子事業の収益回復が貢献し、営業増益の見込み

(単位：百万円)

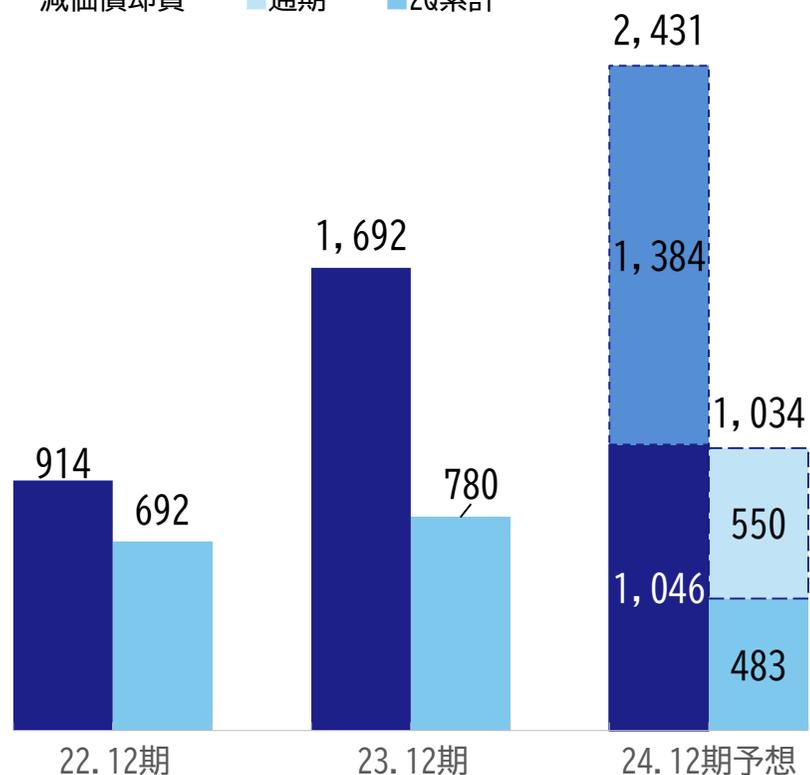


設備投資・減価償却・研究開発

23年12月期の設備投資は当初計画（2,281百万円）に対して抑制（市場動向に合わせ調整）
研究開発費は期初計画（666百万円）に対して増額（高純度石英ガラス関連が増加）

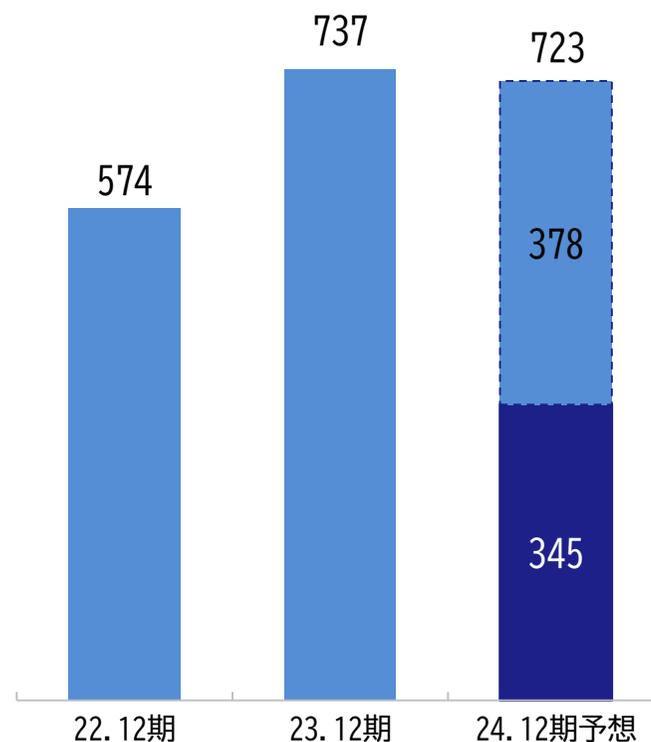
設備投資・減価償却費（百万円）

設備投資額 ■ 通期 ■ 2Q累計
減価償却費 ■ 通期 ■ 2Q累計



研究開発費（百万円）

■ 2Q累計 ■ 通期



Ⅱ. 中期経営計画 成長戦略

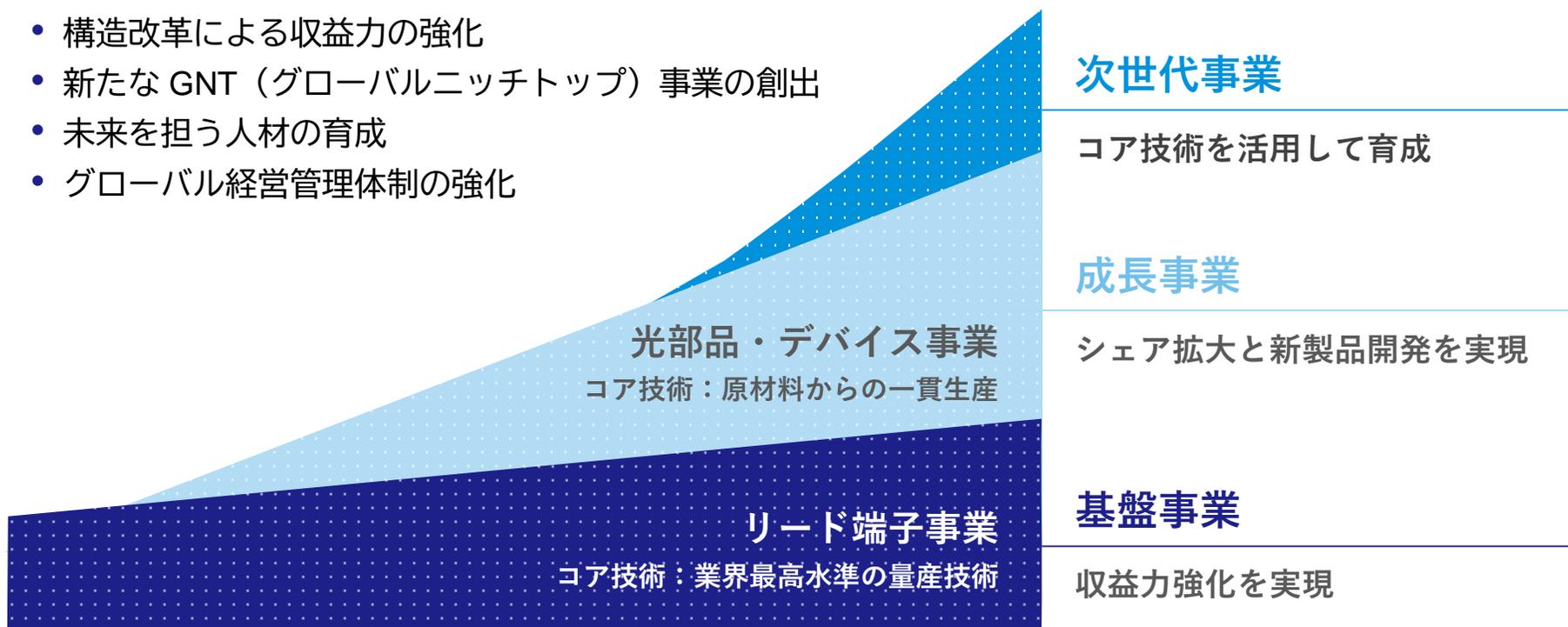
中期経営基本方針

経営ビジョン

オンリーワン企業の実現に資する研究開発、技術開発等を遂行していき、高収益事業を構築していく

中期経営基本方針

- 市場開拓による事業規模の拡大
- 構造改革による収益力の強化
- 新たな GNT（グローバルニッチトップ）事業の創出
- 未来を担う人材の育成
- グローバル経営管理体制の強化



2026年までの中期経営指標

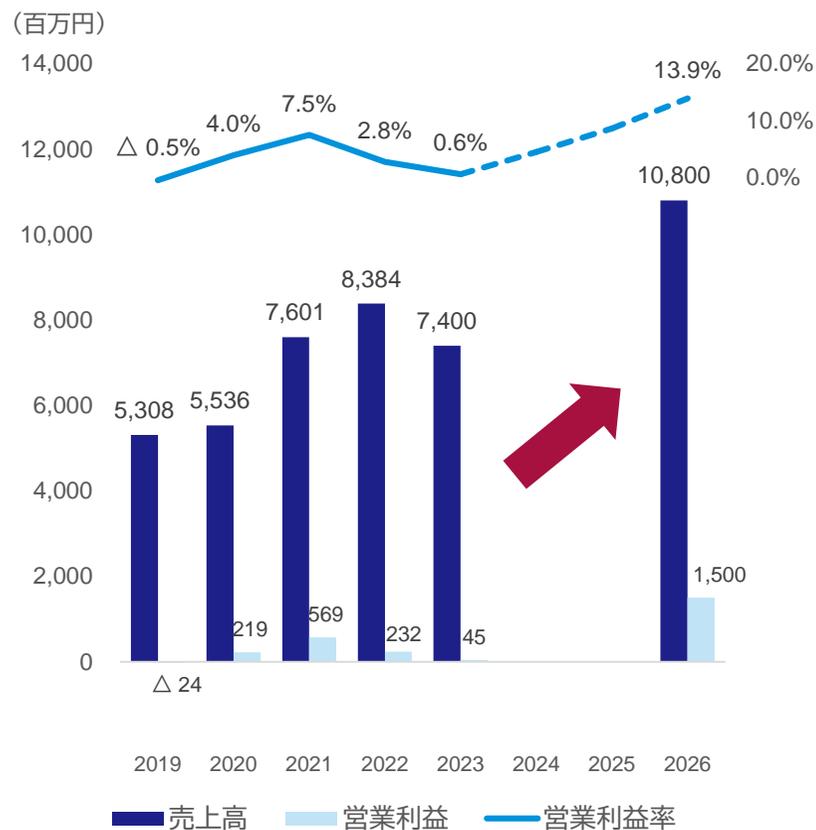
主力2事業の競争力をさらに高め、加えて第3の事業を成長軌道に乗せる

		2023.12期 実績	2026.12期 中期経営計画
成長性	売上高	134億円	209億円
収益性	営業利益	28億円	63億円
投資	設備投資	3年間の累計 約33億円	今後3年間で約66億円
効率性	ROIC	9.5%	16.0%
	ROE	9.9%	16.4%
株主還元方針		連結配当性向 30%目標	安定配当に向けて DOE3%基準を追加する

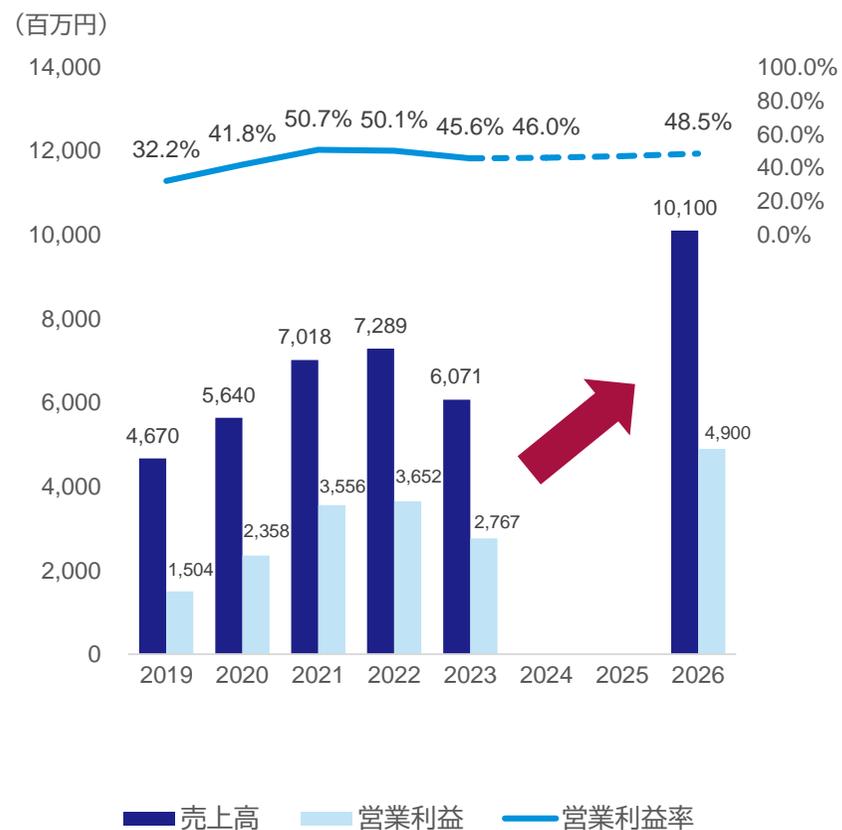
主力2事業の業績イメージ

主力2事業の成長により3年間で1.5倍の売上を目指す

リード端子事業



光部品・デバイス事業



これまでの成果 – 昨年公表の中期経営方針に対する進捗状況

・ 基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現する

- 2023年4月から、不採算アイテムについての価格是正を実行
- 新商品売上比率は、23年度末で、14.9%（年間では12.0%）。「バリレス」の採用が遅れるも、EDLC用高機能製品の売上は増加

・ 成長事業(光部品・デバイス)のシェア拡大と新製品開発を実現する

- 海底ケーブルの多芯化に向けての開発が加速、2023年デザインサンプル出荷済、2024年年央に量産用サンプル出荷予定
- マルチコアファイバ向け光アイソレータをKDDI総研と共同開発、サンプル出荷開始

・ コア技術を活用した次世代事業を育成する

- 2023年7月から紫外線用非球面レンズの量産を開始
- 半導体製造装置・ファイバレーザ顧客向けにサンプル出荷。量産に向けて評価開始
- サンプル提供先顧客からの商談が増加。中期計画最終年度売上7億円以上を目指す

・ 経営管理体制を強化し、強固な利益体質を構築する

- 非財務に関する活動推進体制強化、サステナビリティ委員会発足
- IT基幹システムの再構築、サイバー攻撃対応など、内部管理体制強化を推進

戦略・取組み（リード端子事業）

新製品・新技術開発とコストダウンに重点的に取り組む

中期経営基本方針	リード端子事業における施策	実施事項、KPI
市場開拓による 事業規模の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品（バリレス等）のグローバル拡販、売上増強 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新商品売上比率 2026/12期 30%
	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国市場の深耕、売上増強 ● ハイブリッドタイプ・電気二重層キャパシタ向け 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載市場向け市場シェア95%維持によるグローバル売上拡大
構造改革による 収益力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルでの最適生産化（サプライチェーン・消費地生産・価格・コスト面での最適化） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外生産拠点における生産能力増強と生産性向上（本社工場は高機能製品に特化） ● 日系顧客のハイブリッドタイプ増産に対応
	<ul style="list-style-type: none"> ● レーザー溶接を基軸とした新製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年開発、2026年より量産開始
	<ul style="list-style-type: none"> ● リード端子の高付加価値品開発（アルミ電解コンデンサの特性向上&歩留まり向上への寄与） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備総合効率 85%達成

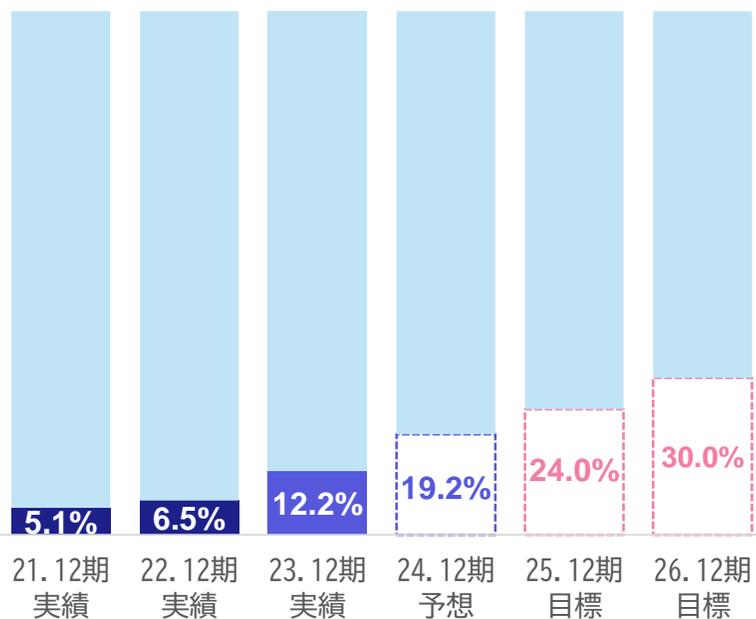
市場開拓による事業規模の拡大

新商品の売上比率の改善、自動車市場向け販売を強化

新商品の売上比率

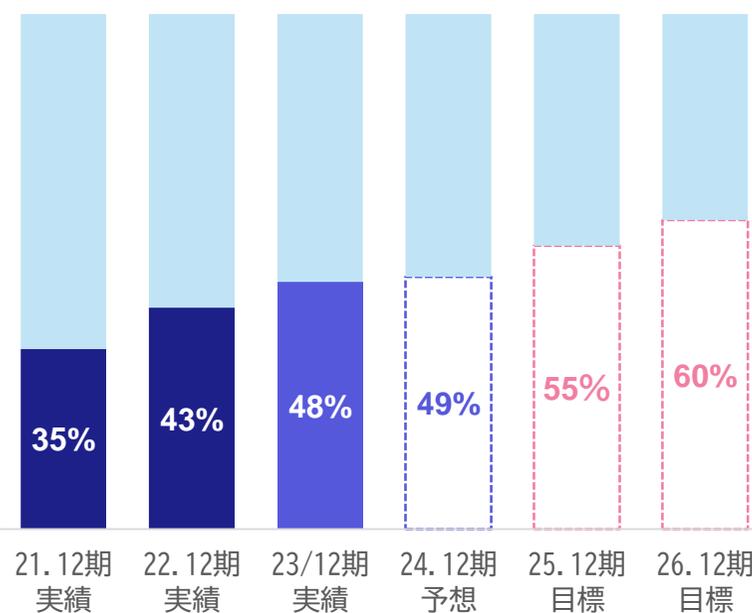


- ・「バリレス」の拡販を強化
- ・高機能新商品のラインアップ強化



自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



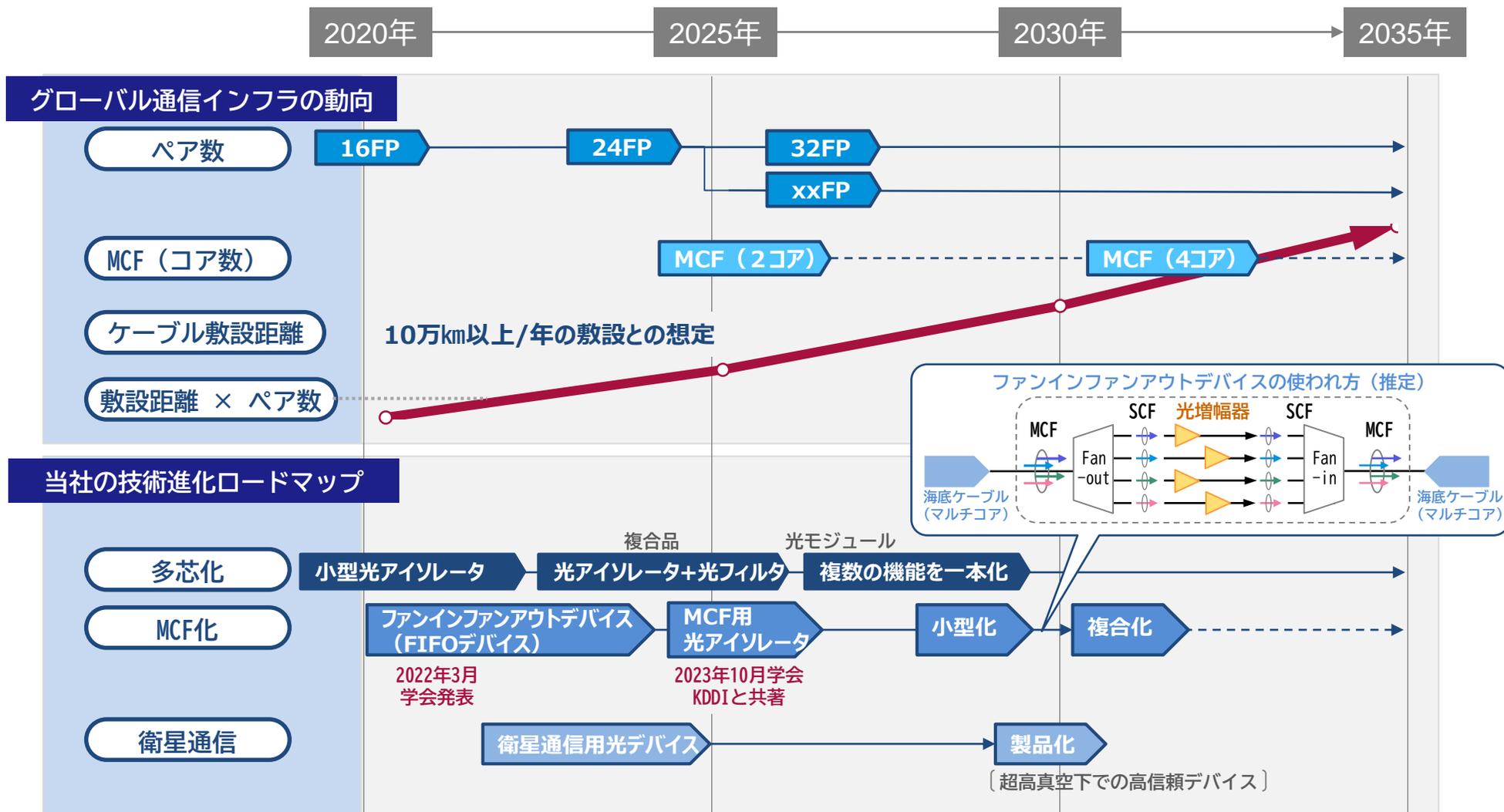
戦略・取組み（光部品・デバイス事業）

お客様とのパートナーシップ強化と自動化やマルチライン化を通して、さらなる売上と収益の強化を図る

中期経営基本方針	光部品・デバイス事業における施策	実施事項、KPI
市場開拓による 事業規模の拡大	● 次世代海底ケーブルのプラットフォームづくりに関わり、ワンストップソリューション提供による販売拡大	● 複合化、モジュール化など新製品の売上高比率：2026/12月期に20%
	● 新しいコア技術や応用分野の研究開発	● 研究開発費：2026/12月期に650百万円
構造改革による 収益力の強化	● 生産の自動化による生産性向上	● 2024年：自動化の第2段階投資 ● 2025年：光アイソレータ組み立て工程の80%を自動化
	● 生産のマルチライン化による強靱化	● 2024年：構想検討 ● 2026年：第2拠点の着手

市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

顧客の技術進化へのサポート強化と、開発過程での周辺技術の取り込みを進める



新たなGNT（グローバルニッチトップ）事業の創出

＜第3の柱＞高純度石英ガラス「SSG®」事業① 事業環境

製造技術のブレークスルーにより、半導体製造装置等への拡大が期待される

＜高純度石英ガラスの特長＞

- ・透過率が高い：赤外線・紫外線を透過
- ・耐熱性・耐熱衝撃性が高い：1,000℃以上で使用可能
- ・化学的安定性が高い
- ・耐光性が高い

＜用途＞

マイクロナンからシックス・ナイン以上の高純度石英ガラスを必要とする用途

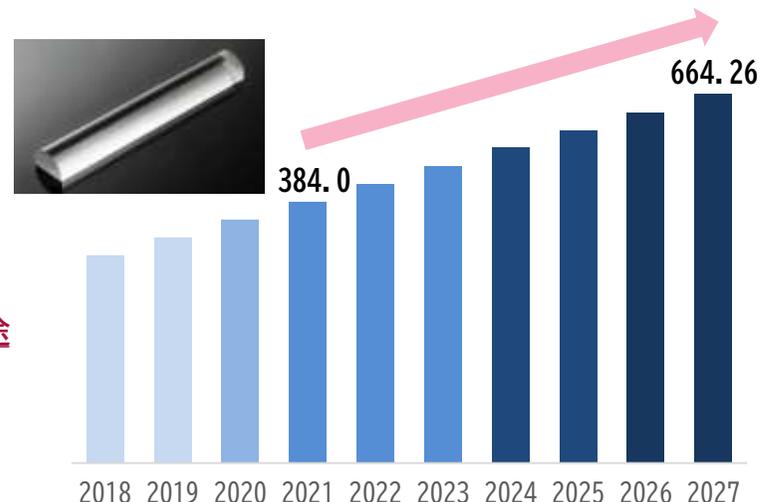
- ・半導体製造装置（化学的安定性・耐熱性）
- ・光ファイバー（高透過性）
- ・レーザー装置（高透過性・耐熱性・耐光性）

＜高純度石英ガラスの一般的な製造方法＞

- 直接法：原料（SiCl₄）を高温度下で堆積し、インゴットを形成
- スート法：原料（SiCl₄）を低温度下で堆積しインゴットで形成、高温度焼結

※高純度石英ガラスの一般的な製造方法については、様々な文献から当社が推定したものです。

＜高純度石英ガラス市場予想＞（百万ドル）



いずれも高温での生成が必要な為、ガラスインゴット（大きな塊）から削り出しや研磨などにより成形する必要があり、必要な形に加工するには多くのエネルギーが必要

SSG®が解決を目指す課題

従来は加工が難しく微細な形状や複雑な形状の成形が困難な為、その用途が限られていた

新たなGNT（グローバルニッチトップ）事業の創出

＜第3の柱＞高純度石英ガラス「SSG®」事業② 強み・戦略

スラリーキャスト法とは？

＜スラリーキャスト法による製造方法＞

- ✓ 常温下でスラリーから成形までを行い、その後、最後に焼結して完成
(焼結後の切削・研磨を大幅削減)
- ✓ 各種レンズ、ノズルのほか様々な形状に加工する際の切削・研磨などの工程を大幅に削減

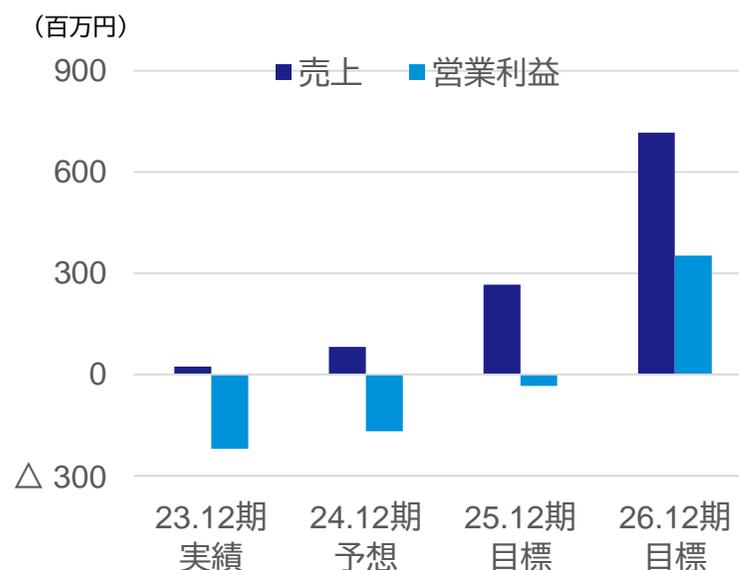
自由度の高い形状に加工することができるため、成形する際の削り出しや研磨の工程を大幅に削減することが可能

「最先端ニッチ市場への展開」

＜事業戦略＞

- 需要の拡大が見込める高純度石英ガラス市場に参入
- ヒーター熱線・紫外線などの集光用レンズ、ファイバープリフォームほか、半導体製造装置、レーザー関連装置、光通信関連等の市場にターゲットを当てる

高純度石英ガラス事業の中期計画



＜SSG®を用いて製作した石英部品の事例＞



微細レンズ

ガラスプリフォーム

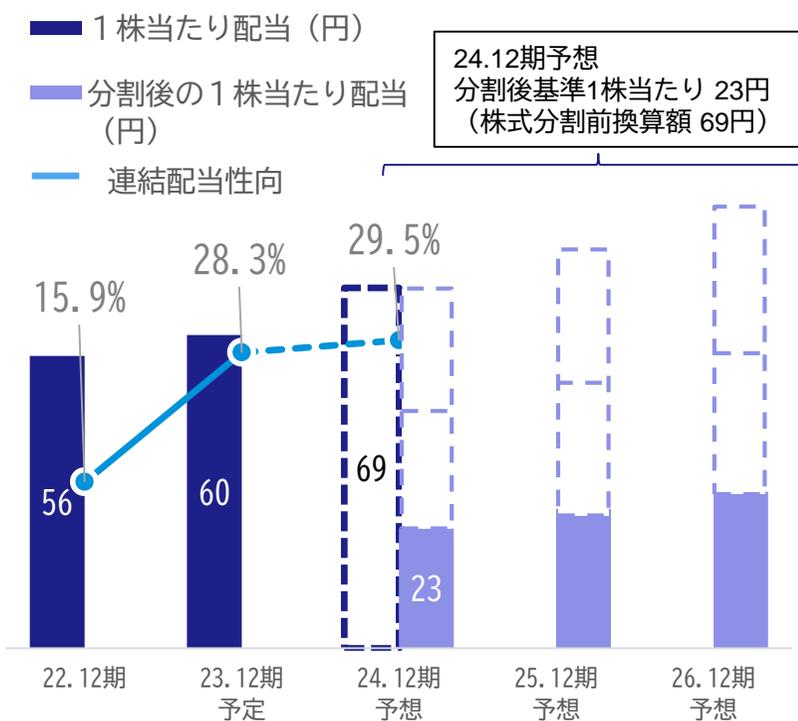
半導体製造装置用
大型成型品

株主還元方針

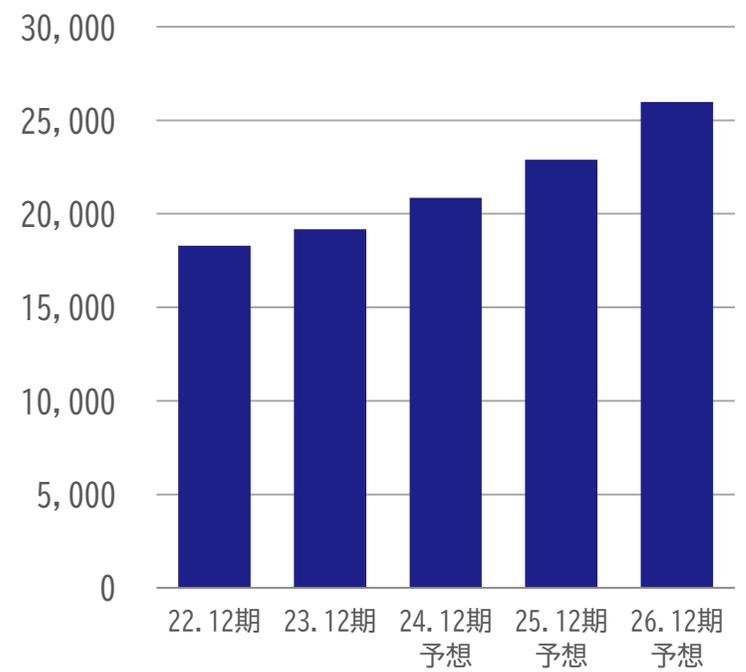
- ① 連結配当性向は、引き続き30%を目標とする
- ② 加えて、安定配当のニーズを踏まえ、D0E3%を基準とする

配当金の推移

【株式分割について】
株式の流動性を高めると共に、投資家層の拡大を目的として、2024年3月31日を基準日として、1:3の割合で実施予定



自己資本の推移 (百万円)



サステナビリティ

サステナビリティ委員会発足、今後テーマ・KPIの見直し、進捗管理を強化

項目	重要課題（マテリアリティ）	具体的取り組みテーマ	KPI(評価尺度) 事例
E 環境	地球環境保全・環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ■CO2削減に寄与する装置の導入 ■太陽光等再生エネルギーの利用比率を増やす ■節電装置の導入/デマンド装置での調整によりCO2排出削減に取り組む ■「山門水源の森の保全」活動との連携 ■ペーパーレス(リデュース)の推進 ■光部品・デバイスの生産性を向上し、資源を有効利用 ■結晶育成工程・KECS・KLAの省電力化 ■不良数の削減 ■グローバルで水の再利用を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・本社 2030年の電力・燃料由来のCO2排出量50%以上削減（2013年比）（2030年排出削減目標 750t/年 以上） ・関係維持強化 ・リード端子：本社 ペーパーレス 2024年 99%削減（2021年比） ・生産性(歩留、工数など) 2022年～ 前年比5%改善 ・電力使用量(原単位当たり) 2022年～ 前年比5%の削減 ・不良率 2024年 38.3%削減（2021年比） ・水使用量 2024年 6%削減（2021年比）
	グローバル人材の育成 多様な個性を尊重し、能力を活かせる職場の形成 安全で働きがいのある職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> ■本社：専門知識及びマネージメントスキルの指導、育成を推進 ■海外：業務のOJTと取巻くビジネス環境のOFF JTを推進 ■ダイバーシティ&インクルージョン(包摂)の推進 ■人権尊重のための啓発活動を行う ■安全衛生諸施策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・本社の業務に必要な専門知識の取得 2022年～ 2件/年 ・海外の業務に必要な専門知識の取得 2022年～ 3件/年 ・健康経営優良法人認定 2023年取得 ・現状有休取得率の調査 2022年～前年比5ポイント増 ・社員満足度調査の活用 調査&改善実施 1回/年
S 社会	人権・多様性の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ■パート社員の適正評価 ■本社：女性・外国人従業員的能力を活かした人材育成 ■海外：女性・外国人従業員の監督職・管理職比率を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性・外国人従業員の監督職(リーダー)・管理職比率：2022年～ 前年比5%アップ ・キャリアアップ研修受講率：2022年～3年計画 15%アップ
	世の中になく新製品の開発・提供	<ul style="list-style-type: none"> ■技術革新に貢献する新しい光部品・デバイスを実現 ■省エネルギー化に貢献する光部品・デバイスを実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・新製品比率(売上高) 2024年 15%以上 ・省エネルギー製品比率(売上高) 2024年 15%以上
	製造技術及び品質保証体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■高い技術で生産性と品質向上を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・OEE(総合設備効率) 2024年 88%(新溶接技術を含むと90%)
G ガバナンス	地域社会との共存共益	<ul style="list-style-type: none"> ■社会貢献の取り組みを推進 ■「山門水源の森の保全」活動との連携 ■「長浜農高」への奨学金プログラムを推進、「長浜市への美術教材」寄附を継続 ■「近隣のカーブミラー清掃・ゴミ清掃」活動を推進 ■社会貢献の新たな取り組みを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動の資金拠出基本方針 対当社連結経常利益(過去3期平均) 0.5%から1%
	サプライヤーとのパートナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ■公正取引の文化を推進する(ステークホルダーマネジメント) ■コンプライアンス教育・研修の強化 ■内部通報制度の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価スコアの仕組みを検討し実施 評価スコア 2023年～ 前年比5%アップ
	コーポレートガバナンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ■所有する情報・知的財産を適正に管理・活用 ■情報システム・セキュリティについて適切な対策を取る ■サステナビリティ基本方針の策定(CGコード3-1③、4-2②) ■英語での情報開示(3-1②) ■事業ポートフォリオの方針作成(5-2①) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンスコードへの継続的な対応

Ⅲ. セグメント別の状況

セグメント別業績(4Q累計) - リード端子

自動車向けの在庫調整に加え、ICT・民生向けの数量の落ち込みが特に大きく、減収減益

(単位：百万円)

	2022.12期		2023.12期		2023.12期					
	4Q累計	4Q累計	前期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	4Q (10月-12月)	直前四半期比	
売上高	8,384	7,400	△983	△11.7%	1,864	1,924	1,791	1,819	+28	+1.6%
営業利益	232	44	△187	△80.7%	28	128	△95	△16	+79	—
営業利益率	2.8%	0.6%	△2.2pt	—	1.5%	6.7%	△5.4%	△0.9%	+4.4pt	—

2023年12月期(4Q累計)の概況

● 市況回復が戻らず、厳しい事業環境

- EV市場の拡大は続くが、アルミ電解コンデンサなど一部の電子部品については、サプライチェーンの正常化に伴う過剰在庫の調整の影響を受ける
- PCをはじめとする情報通信機器市場及び民生機器市場などは、厳しい状況が続く

● 当社の状況と収益改善への取り組み

- 対振動特性や絶縁特性を大幅に改善した「バリレス」や、EDLC(電気二重層キャパシタ)向け新製品を拡販
- 高効率・高精度を実現する新しい溶接技術の開発への取り組み
- 主力の中国蘇州工場を移転、グローバル生産体制の最適化と東莞・マレーシア工場の技術力改善を進める

2023年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	2023/12期予想（当初コメント）	2023/12期実績	2024/12期見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 (主に日系顧客の状況)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年は、2022年に対して車載向けは半導体不足が続き今年前半は微増、後半は回復、非車載分野は微減と予想 ● 通信機器分野は、中国市場の回復遅れで、今年前半は厳しい状況が続き、下期から少しずつ回復と予想 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コロナ下で発生した過剰在庫の調整が長引き、自動車市場向けが回復せず、加えて非車載分野は在庫調整に需要低迷もあり、大幅減となった ➢ スマートフォン市場の低迷やデータセンター投資の抑制などにより厳しい状況が続いた 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 在庫調整は春までに終了し、その後回復の見通し ➢ 自動車市場は引き続きEVの普及を見込むが中国他景気後退懸念により緩やかな回復を予想 ➢ 情報通信機器、民生市場向けは在庫調整からの回復を見込むが、需要は低迷が続く予想
(2) 用途別の動向	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車市場向けハイブリッドコンデンサが約30%増（一部既存市場を置き換え） ● 自動車市場は全体は微増だが、EV市場は大きく伸びると想定される ● ICT市場について、PC、サーバー、スマートフォン市場は今年前半までは低迷が続く 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 中国、欧州自動車市場向けの需要が増加せず ➢ EV市場は拡大したが、アルミ電解コンデンサ市場は過剰在庫の調整が長引いた ➢ データセンター市場の投資抑制、PC、スマートフォン市場の低迷が続いた 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自動車用はハイブリッドコンデンサ向けリード端子の売上は前年比3倍を見込む ➢ 期初時点で在庫調整はほぼ終了。春以降の回復を見込む ➢ 生成AI市場の牽引などにより、年後半、回復に向かう見通し

2023年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

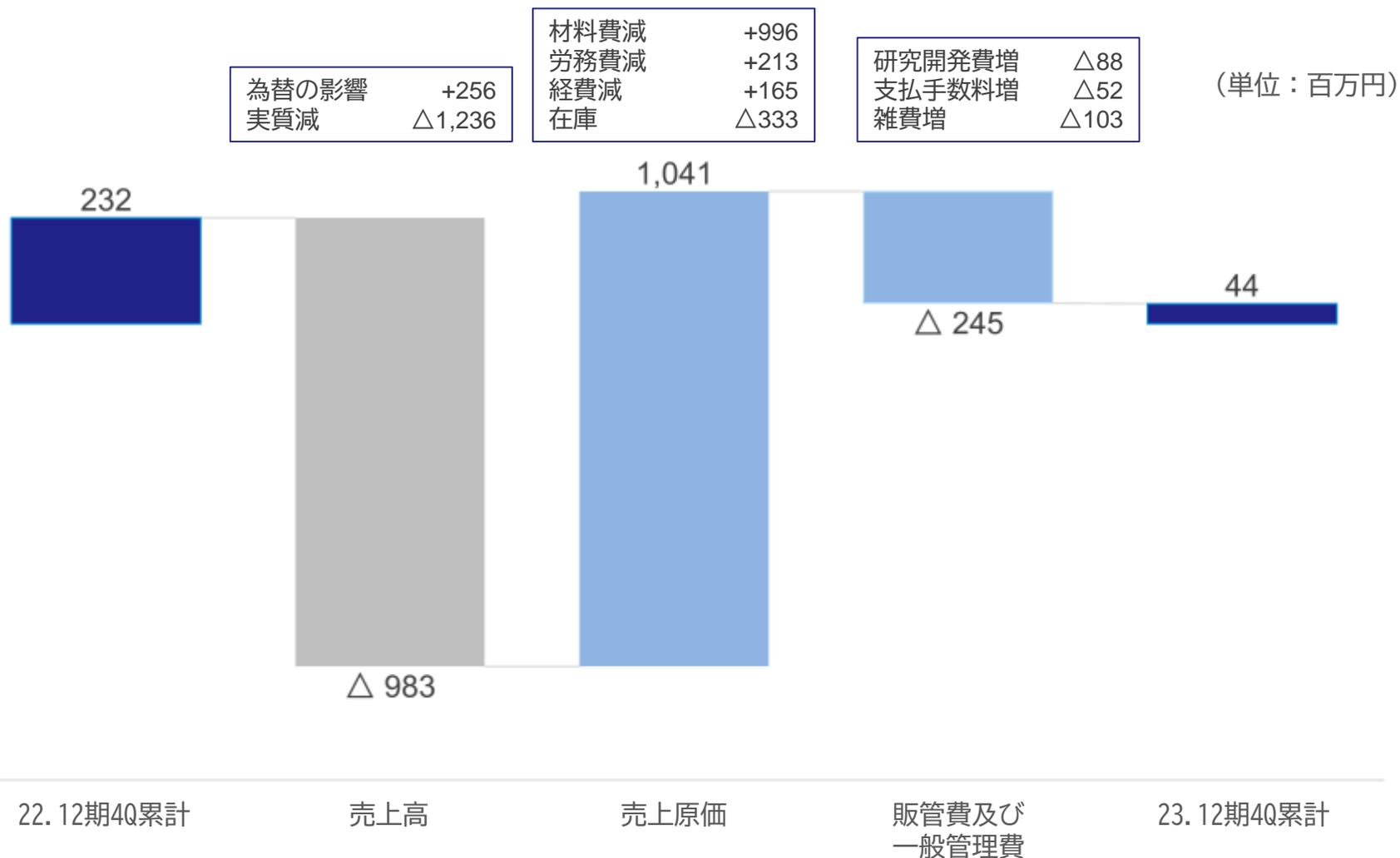
2. 当社の経営環境

	2023/12期予想（当初コメント）	2023/12期実績	2024/12期計画																		
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年7月～9月まで蘇州工場での生産停止、10月から生産回復の見通し ● 蘇州工場で6月迄の在庫積上げ、在庫販売、及び東莞・マレーシア工場への設備移動、増産 ● 蘇州工場の移転に伴い、海外生産比率を、蘇州：東莞：マレーシア=5：2：2→3：3：3に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2023年10月からフル生産に移行完了 ➢ 予定通り2023年9月迄に在庫の正常化を完了 ➢ 蘇州工場移転に合わせて移行済 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 蘇州、東莞、マレーシア各拠点での生産効率改善による収益力強化、品質改善を進める ➢ OEE 85%目標 																		
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイブリッドコンデンサの伸びに合わせて、新商品のバリレスタイプを大幅増産（全拠点）し、新商品の売上比率を売上20%へ一気に引き上げる ● バリレス以外の新商品についても車載市場の伸びに応じ、後半の増加を想定 ● 車載向けEDLC（電気二重層キャパシタ）向けが、徐々に拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ バリレスの採用評価に時間がかかり大幅未達。下期に入り徐々に評価が進行。 （主要顧客のうち約2/3が採用決定） ➢ EDLC向け売上大幅増加 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想 																		
			<table border="1"> <caption>高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想 (億円)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>液体コンデンサ</th> <th>電気二重層キャパシタ</th> <th>ハイブリッドタイプ</th> <th>固体コンデンサ</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2023</td> <td>~3.5</td> <td>~2.5</td> <td>~2.5</td> <td>~1.5</td> <td>~10.0</td> </tr> <tr> <td>2024</td> <td>~4.5</td> <td>~3.5</td> <td>~3.5</td> <td>~2.5</td> <td>~16.0</td> </tr> </tbody> </table>	年	液体コンデンサ	電気二重層キャパシタ	ハイブリッドタイプ	固体コンデンサ	合計	2023	~3.5	~2.5	~2.5	~1.5	~10.0	2024	~4.5	~3.5	~3.5	~2.5	~16.0
年	液体コンデンサ	電気二重層キャパシタ	ハイブリッドタイプ	固体コンデンサ	合計																
2023	~3.5	~2.5	~2.5	~1.5	~10.0																
2024	~4.5	~3.5	~3.5	~2.5	~16.0																
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> ● リード端子技術の要となる新溶接技術の開発に着手（2024年実用化を目標） ● 高速回転化（300rpm→350rpm）、可動率（85%→90%）、OEE（設備総合効率）（83%→90%） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 継続開発 ➢ 継続開発 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ OEE 85%目標 ➢ レーザー溶接製品サンプル出荷開始 																		
			<p>（開発中のレーザー溶接機）</p>																		

セグメント別

営業利益の増減要因（前期比） - リード端子

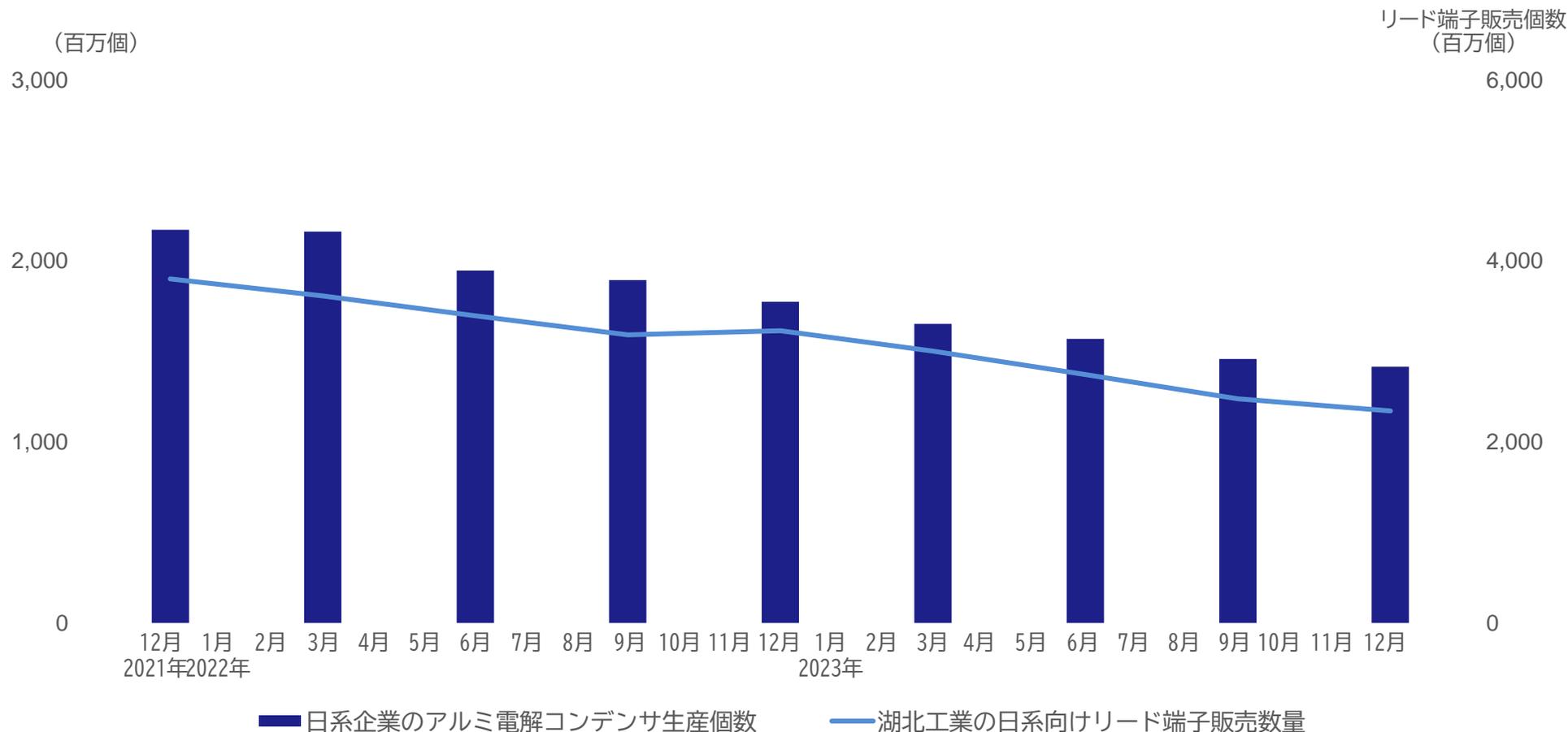
市況悪化による数量減少をコストダウン等である程度カバーした



2023年12月期の事業環境

日系企業のアルミ電解コンデンサの生産個数は、一昨年夏からの調整が長引く

小型アルミ電解コンデンサ 市場生産推移（日系）（海外生産分を含む）



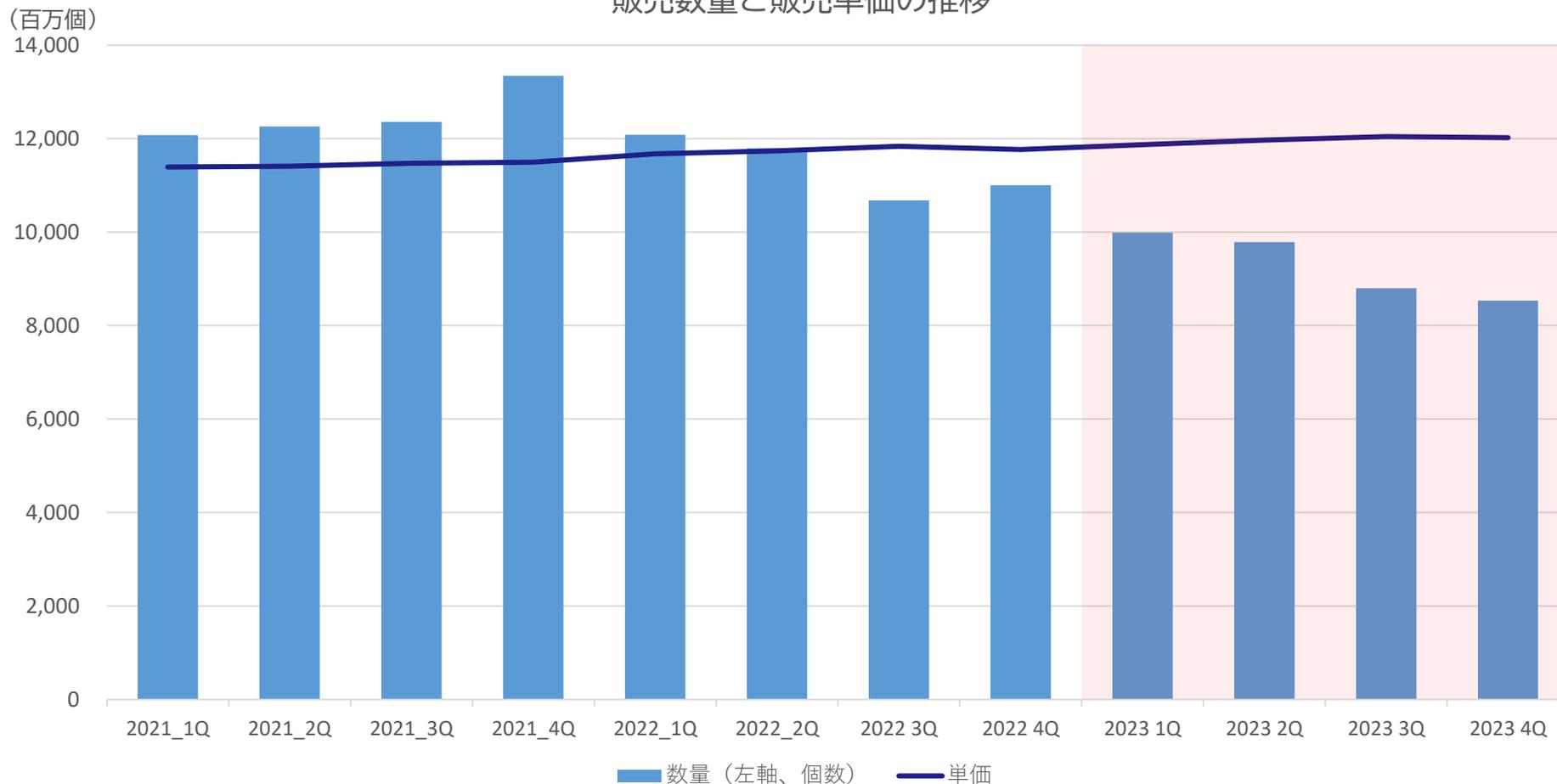
※数字は各月単月の数字

(出所：湖北工業調べ)

販売数量、販売単価の動向

市場環境は厳しい状況が続いたが、調整は最終局面と推定

販売数量と販売単価の推移



リード端子事業の見通し

市場回復とプロダクトミクス改善により、下期の収益は回復する見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期 (計画)				対前期増減	前期比
	実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	7,400	3,701	4,166	7,868	+467	+6.3%	
営業利益	44	47	210	257	+212	+473.5%	
営業利益率	0.6%	1.3%	5.0%	3.3%	+2.6pt	—	

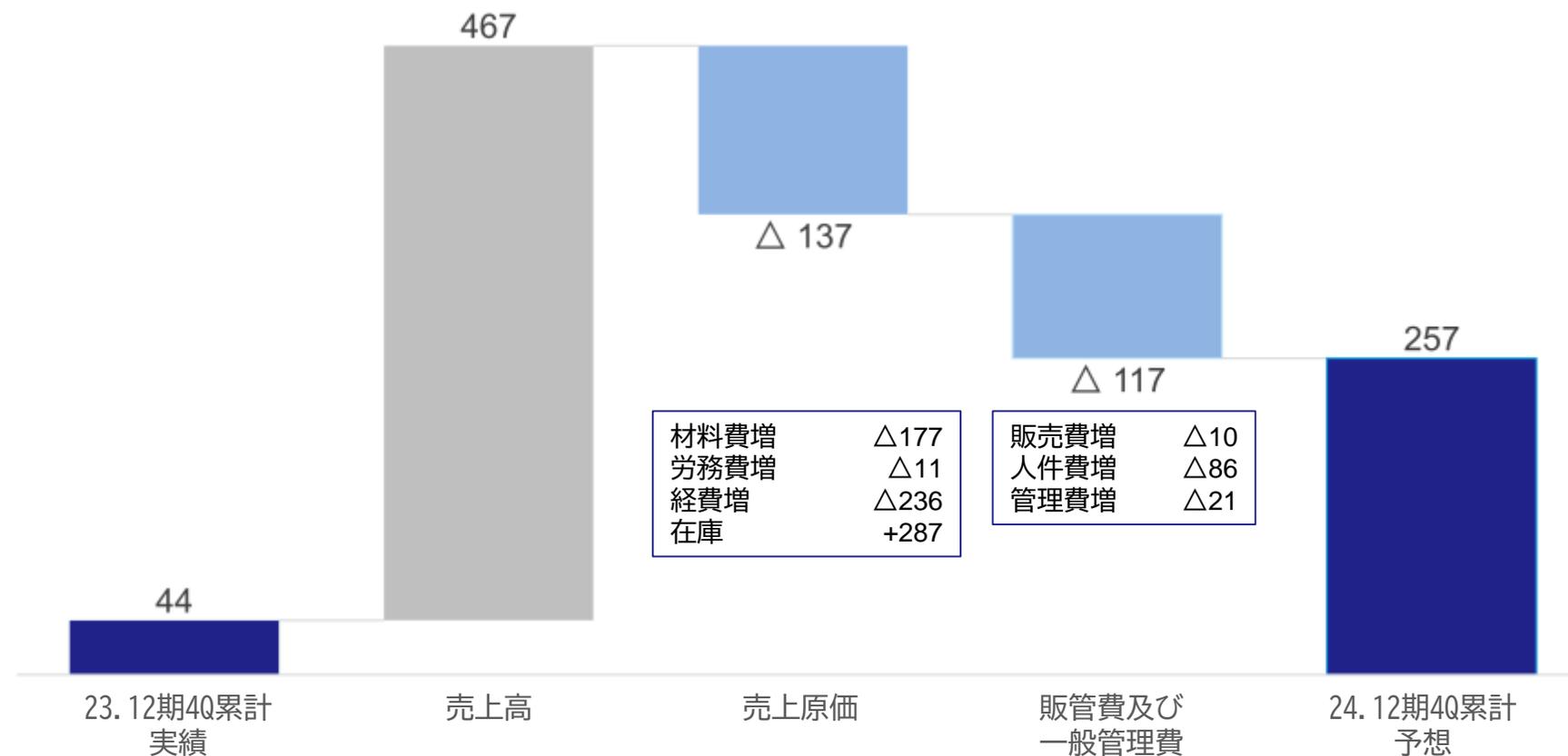
2024年12月期の見通し

- 市場の調整は2023年10-12月がボトムと見るが、今年前半の急回復は期待できないと予想、回復は年央以降になる見通し
- 東莞、マレーシアでの生産能力アップと生産効率改善を推進
- ハイブリッドコンデンサ向け売上については、バリレス他新製品の拡販により売上前年比2.8倍を目指す

セグメント別営業利益の増減要因（予想） - リード端子

市場回復と新製品売上拡大により、増収増益を見込む

(単位：百万円)



セグメント別業績(4Q累計) - 光部品・デバイス

光フィルタ、光ファイバアレイ製品が低迷、減収減益

(単位：百万円)

	2022.12期	2023.12期			2023.12期					
	4Q累計	4Q累計	前期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	4Q (10月-12月)	直前四半期比	
売上高	7,289	6,071	△1,217	△16.7%	1,656	1,577	1,539	1,297	△242	△15.7%
営業利益	3,652	2,767	△884	△24.2%	817	711	704	534	△170	△24.2%
営業利益率	50.1%	45.6%	△4.5pt	—	49.3%	45.1%	45.8%	41.2%	△4.6pt	—

2023年12月期の概況

- 業界・市場動向
 - ・光デバイス製品では、世界的な通信インフラの強化に伴う需要拡大を背景に、光アイソレータの長期一括受注を獲得
 - ・海底ケーブル市場向は、一部のプロジェクトのスケジュール変更に伴い部品の在庫調整が発生、光フィルタの売上がダウン
 - ・陸上光通信用光ファイバアレイ製品では、データセンタ市場の調整などにより売上が大きく落ち込み
- 外部環境の変化とその対応
 - ・安定供給体制を強化するため、後工程拠点における生産の自動化、前工程拠点における止水対策等自然災害対策を強化
 - ・情報通信量の拡大に向けた技術進展に合わせて、多芯化に対応した小型製品や複合製品の開発
 - ・将来技術であるマルチコアファイバに対応した、「4芯MCFコア間スイッチングモジュール」や、「海底ケーブルなど長距離通信向けの4コアファイバ用光アイソレータ」など次世代通信技術の進化に向けて、研究開発活動を強化

市場環境・経営環境について - 光部品・デバイス事業

1. 市場環境、受注動向

	23年12月期当初 (2023年2月時点) コメント	23年12月期の結果	24年12月期の見通し
(1)市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ● 海上ケーブル市場は高速大容量化の傾向が継続することから引き続き堅実な市場成長を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海底ケーブル向けは後半回復を見込んでいた顧客向けが回復せず売上未達 ➢ 陸上向け製品も中国市場向け等で大幅未達 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 光アイソレータは堅調が続く見通し ➢ 光フィルタは年央から回復の見通し ➢ 後半は、長期視点の海底ケーブルプロジェクトによる回復を見込む

2. 当社の経営環境

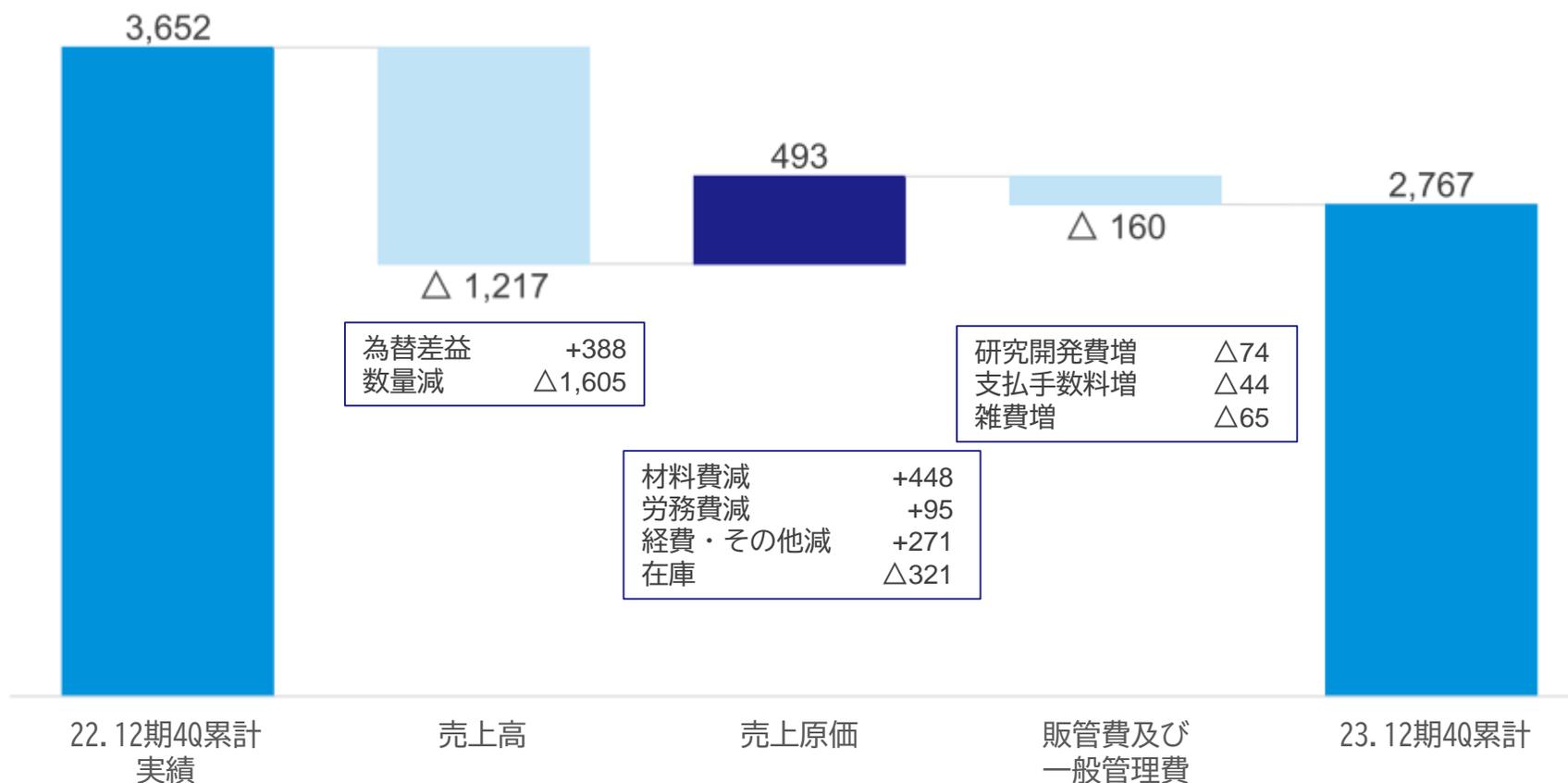
	当初 (2月時点) コメント	23年12月期の結果	24年12月期の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 32FP以上に対応した新製品開発 ● マルチコアファイバ/宇宙通信光デバイスなど2030年以降に向けた技術開発 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海底ケーブル向け、複合デバイス/モジュール新製品の開発が進捗 ➢ マルチコアファイバ用光デバイスのサンプル出荷を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 複合デバイス新製品。24年後半に量産サンプル出荷。25年売上貢献に期待 ➢ 従来シーズ開発から次世代技術やプラットフォーム開発に移行
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> ● 半自動生産装置の導入 ● BCP体制を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スリランカ工場での半自動装置での量産試作開始 ➢ 光デバイスの前工程拠点（本社工場）にて洪水対策完了。本社BCP体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スリランカでの半自動生産装置を増設、生産能力増強

セグメント別

営業利益の増減要因（前期比） - 光部品・デバイス

夏頃まで続いた納期調整や一部の海底ケーブル敷設プロジェクトの遅延などにより
光フィルタデバイスの売上が減少

(単位：百万円)



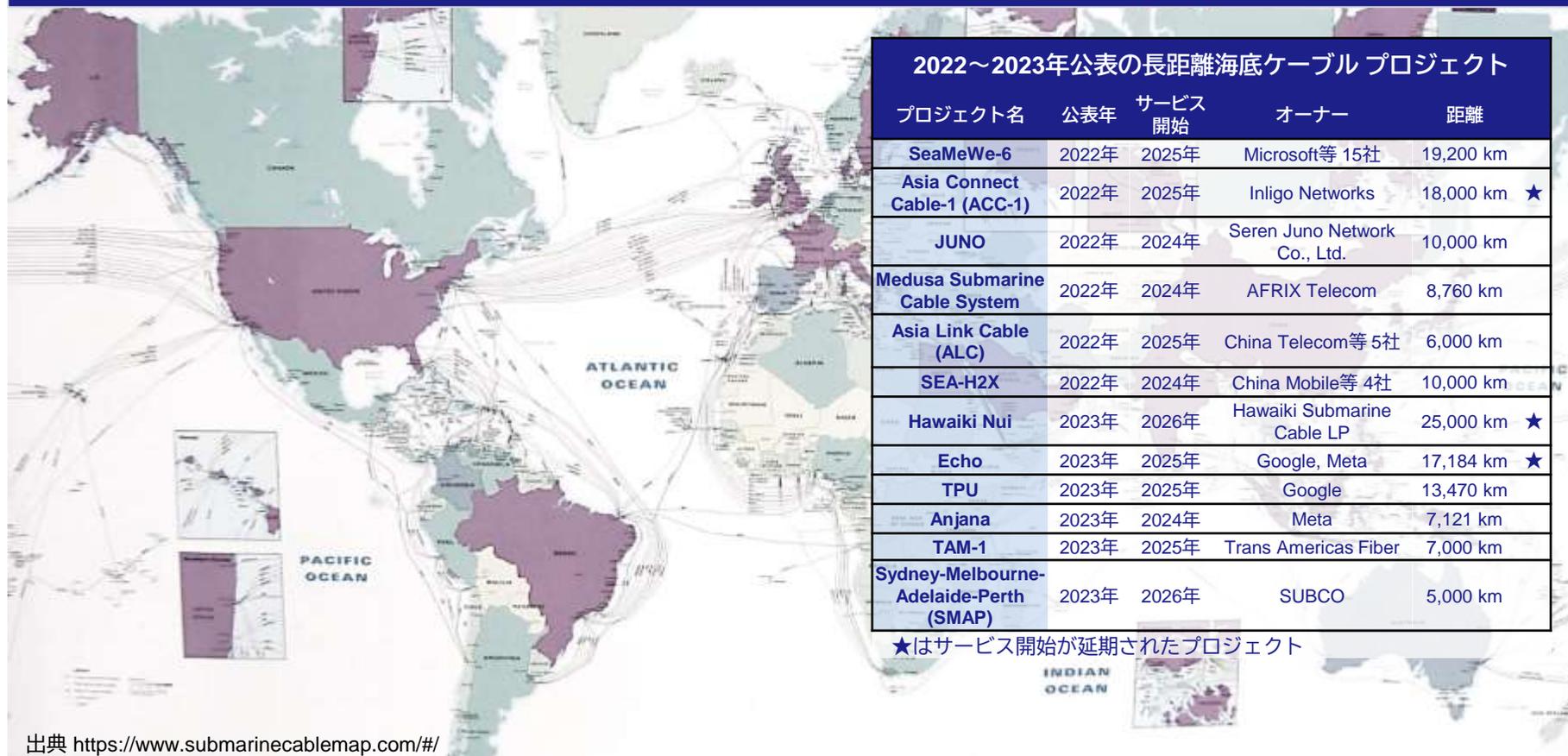
2024年以降も新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

通信キャリア、GAFAMに加え、データセンターからの長距離プロジェクトが今後増加の見通し

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図

2024年1月現在



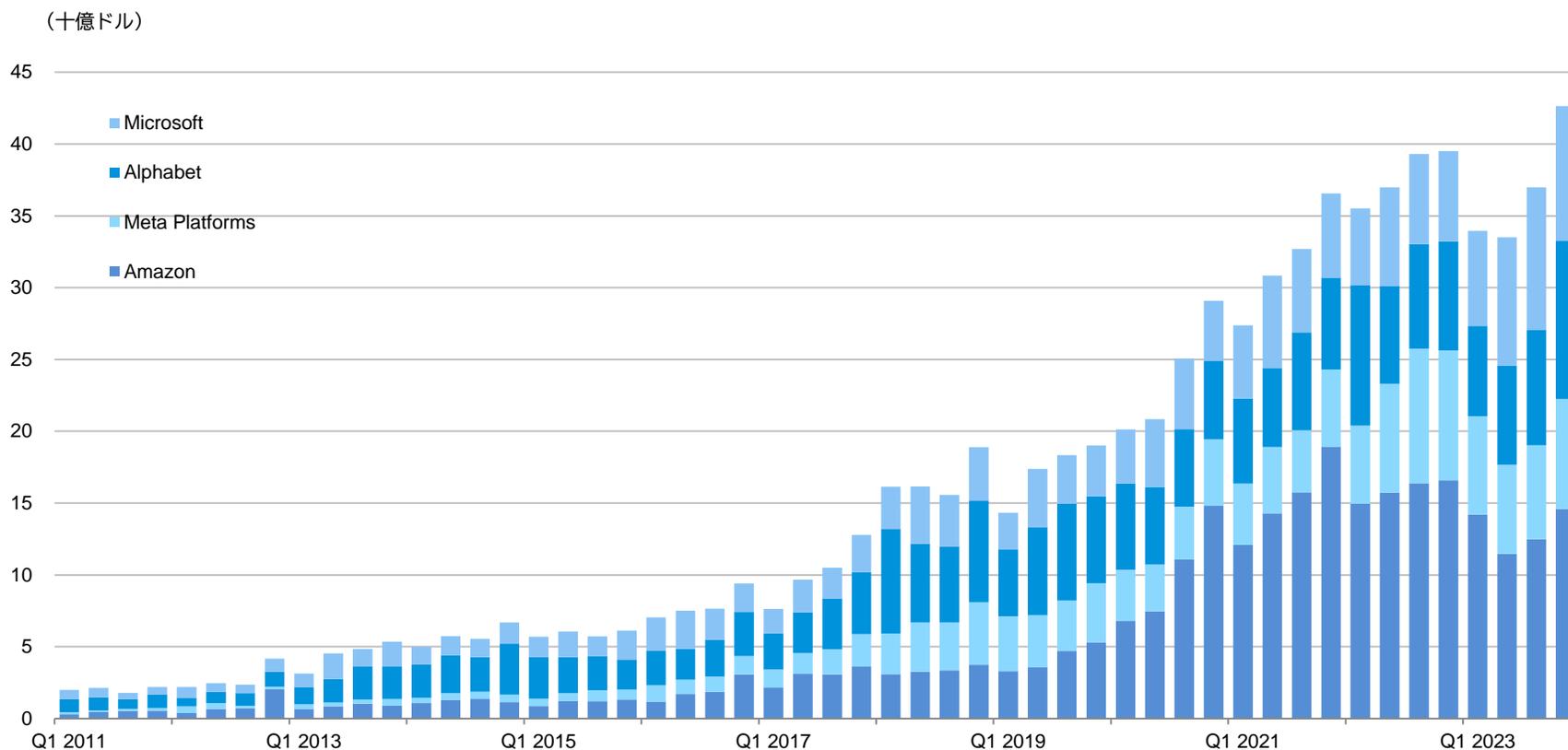
※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

2023年12月期までの事業環境

GAFAMの投資抑制が底打ち、回復傾向に転換

GAFAMの設備投資

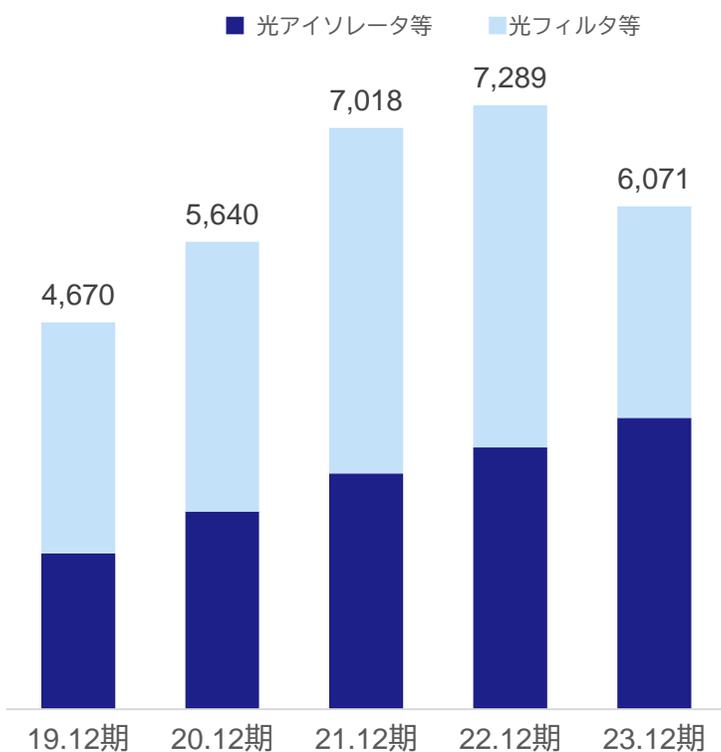


(出所：会社資料)

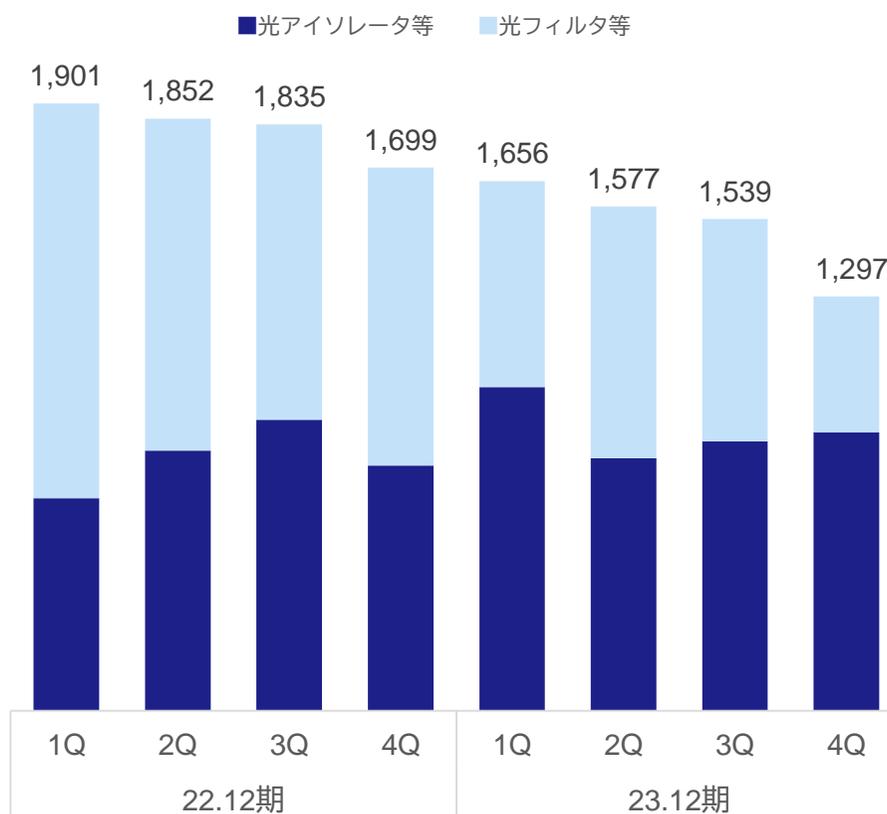
製品別売上推移 - 光部品・デバイス

主力の光アイソレータの売上は堅調に推移したが、光フィルタ・光ファイバアレイ製品の売上がダウン

年間売上高（百万円）



四半期売上高（百万円）



光部品・デバイス事業の見通し

生成AIを始めとする情報通信の拡大を背景に、下期から海底ケーブル市場の回復を見込む

セグメント業績

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期 (計画)				対前期増減	前期比
	実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	6,071	3,098	3,569	6,667	+596	+9.8%	
営業利益	2,767	1,379	1,606	2,986	+218	+7.9%	
営業利益率	45.6%	44.5%	45.0%	44.8%	△0.8pt	—	

※百万円未満切り捨て

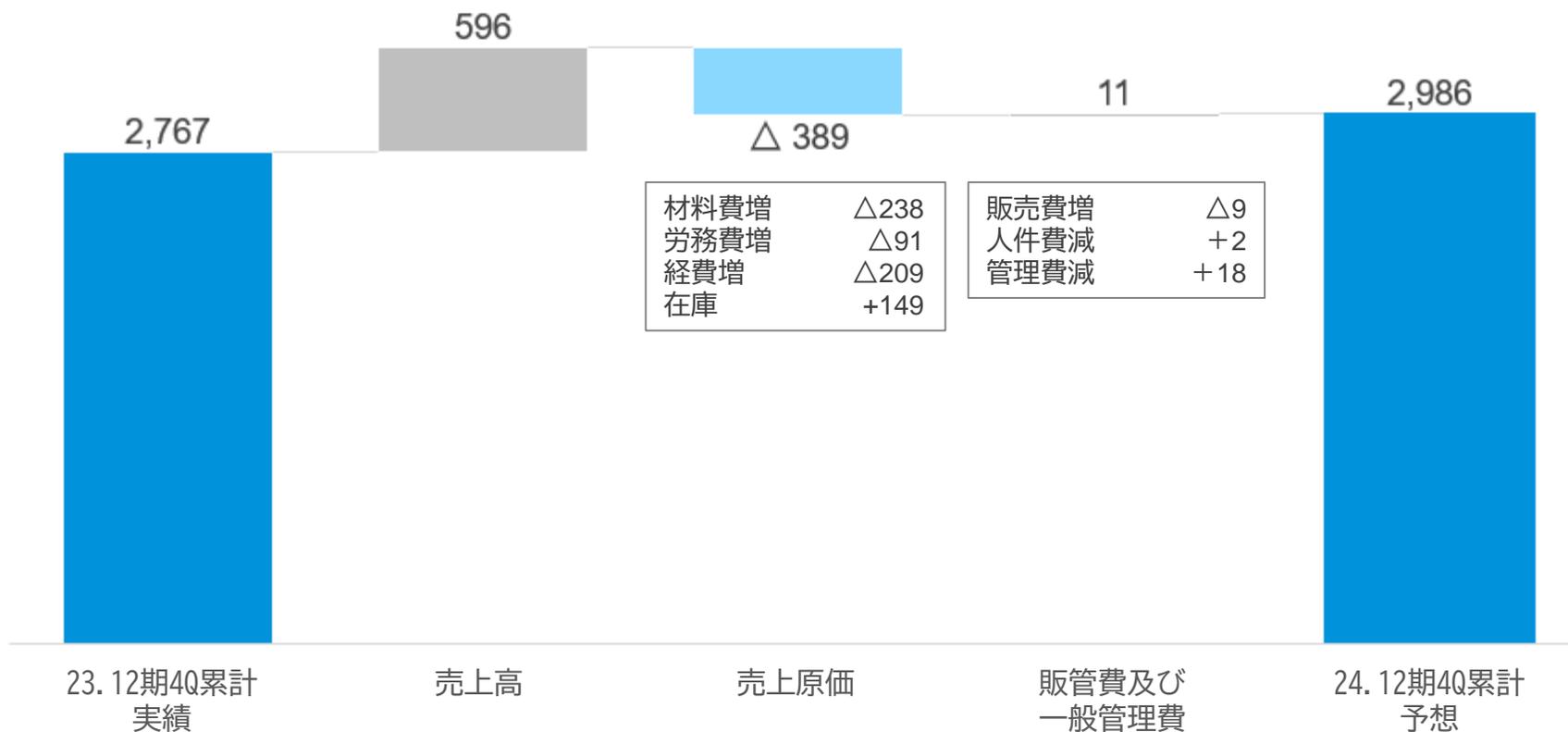
2024年12月期の見通し

- 海底ケーブル向けは、前半まで調整の影響が残るが、後半は成長軌道に戻る見通し
- 複合化、モジュール化に向けた新製品は今年後半にサンプル出荷を開始予定

セグメント別営業利益の増減要因（予想） - 光部品・デバイス

売上が年央より回復、増収増益を確保の予定

（単位：百万円）



IV. 參考資料

2023年12月期(4Q累計)の事業環境

1-12月の期中平均レートは、140.66円/USDとなり、想定為替レートより円安で推移

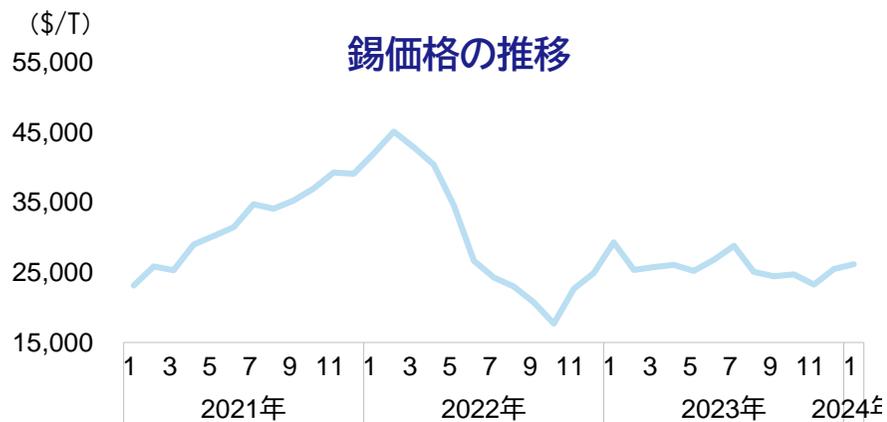
USD/JPYトレンドグラフ



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

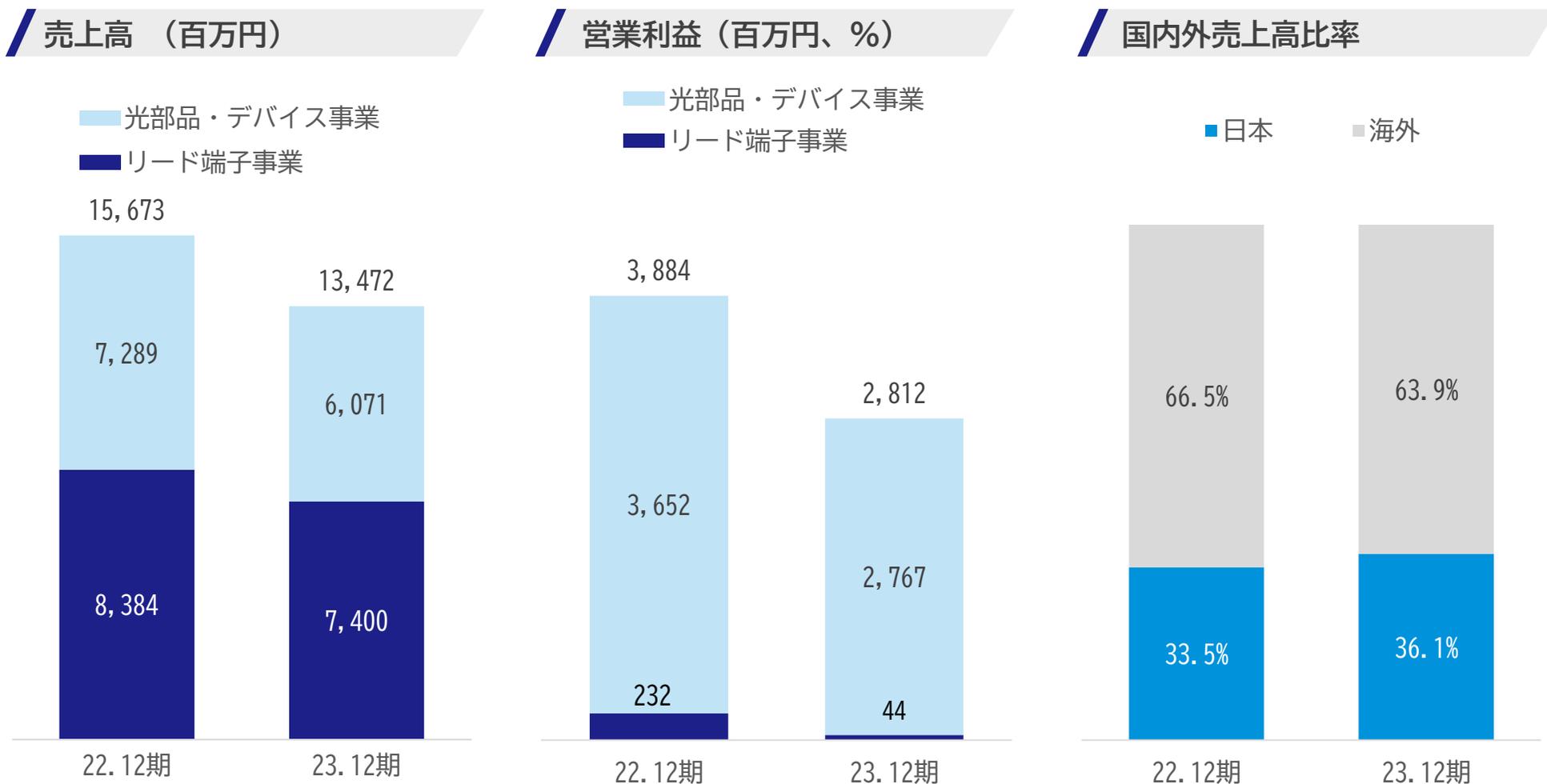
非鉄金属の市場価格は2022年下落トレンドから反転し、大きな変動がなく推移

非鉄金属相場（LME）の推移



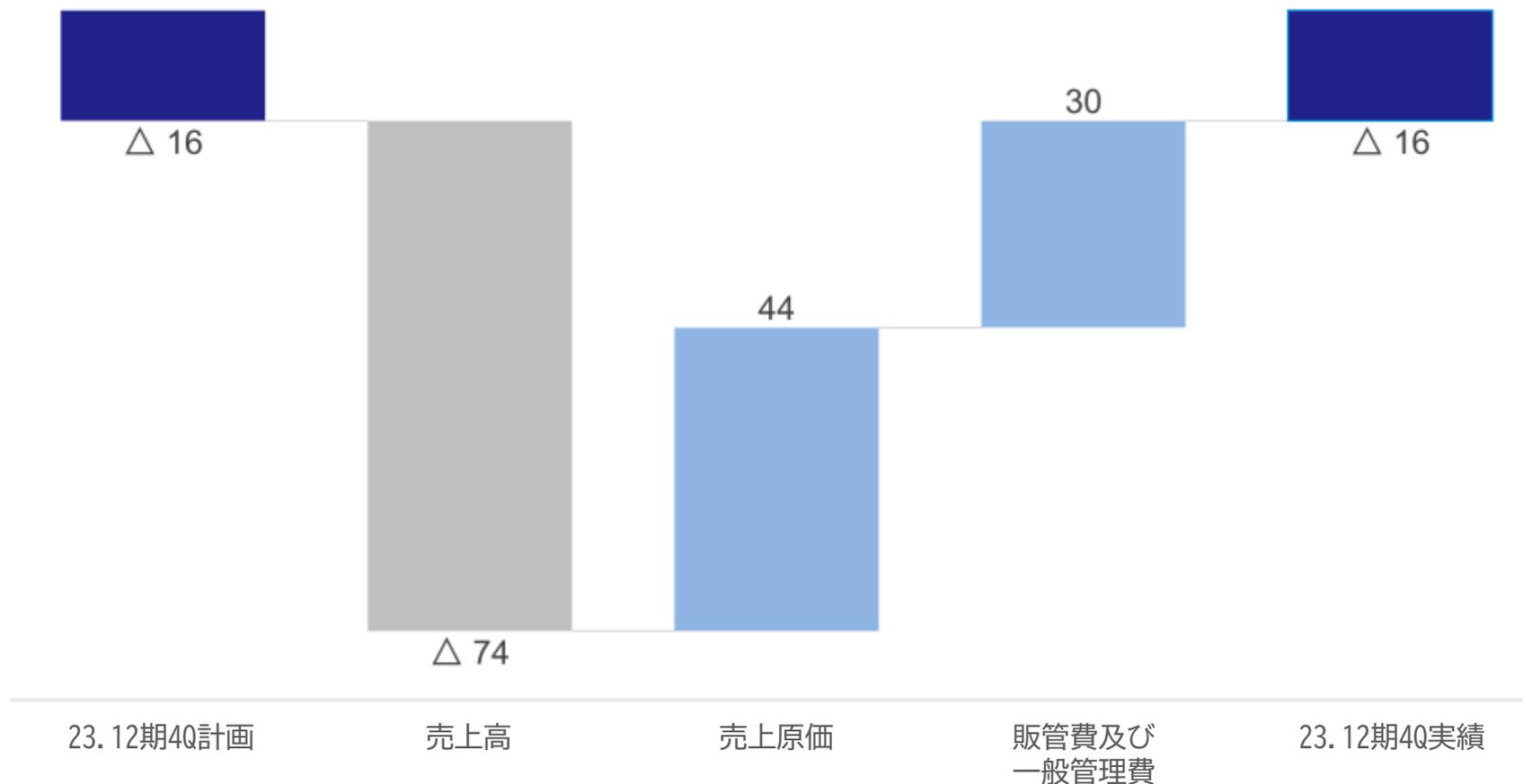
セグメント別業績及び国内外売上高比率(4Q累計)

リード端子、光部品・デバイスともに売上は前期比2ケタの減少



セグメント別
 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (23/8時点の修正計画比) - リード端子
 売上は減少したが、コストダウン、ミクス改善により利益は横ばい

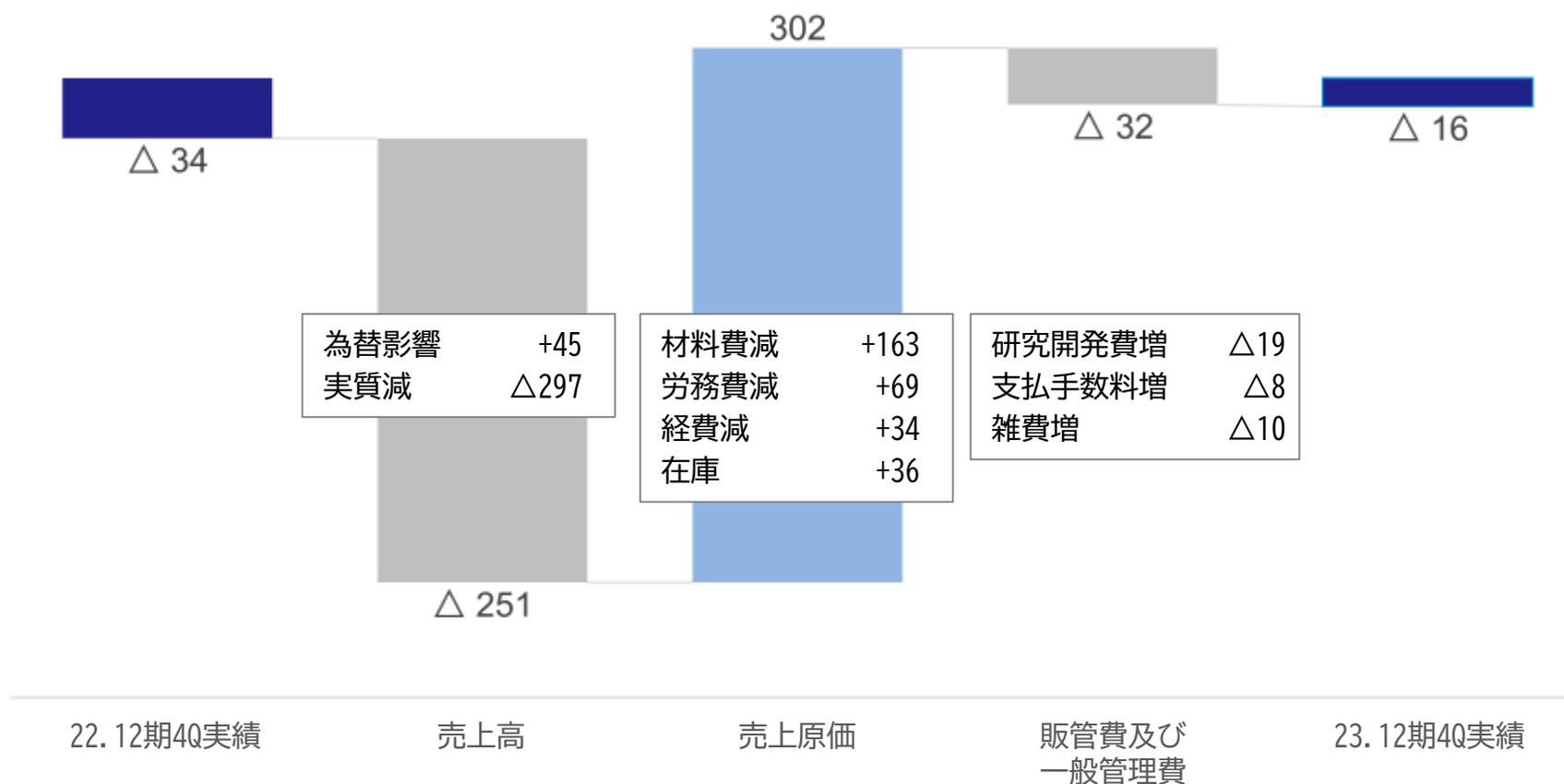
(単位：百万円)



セグメント別 営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (前年同四半期比) - リード端子

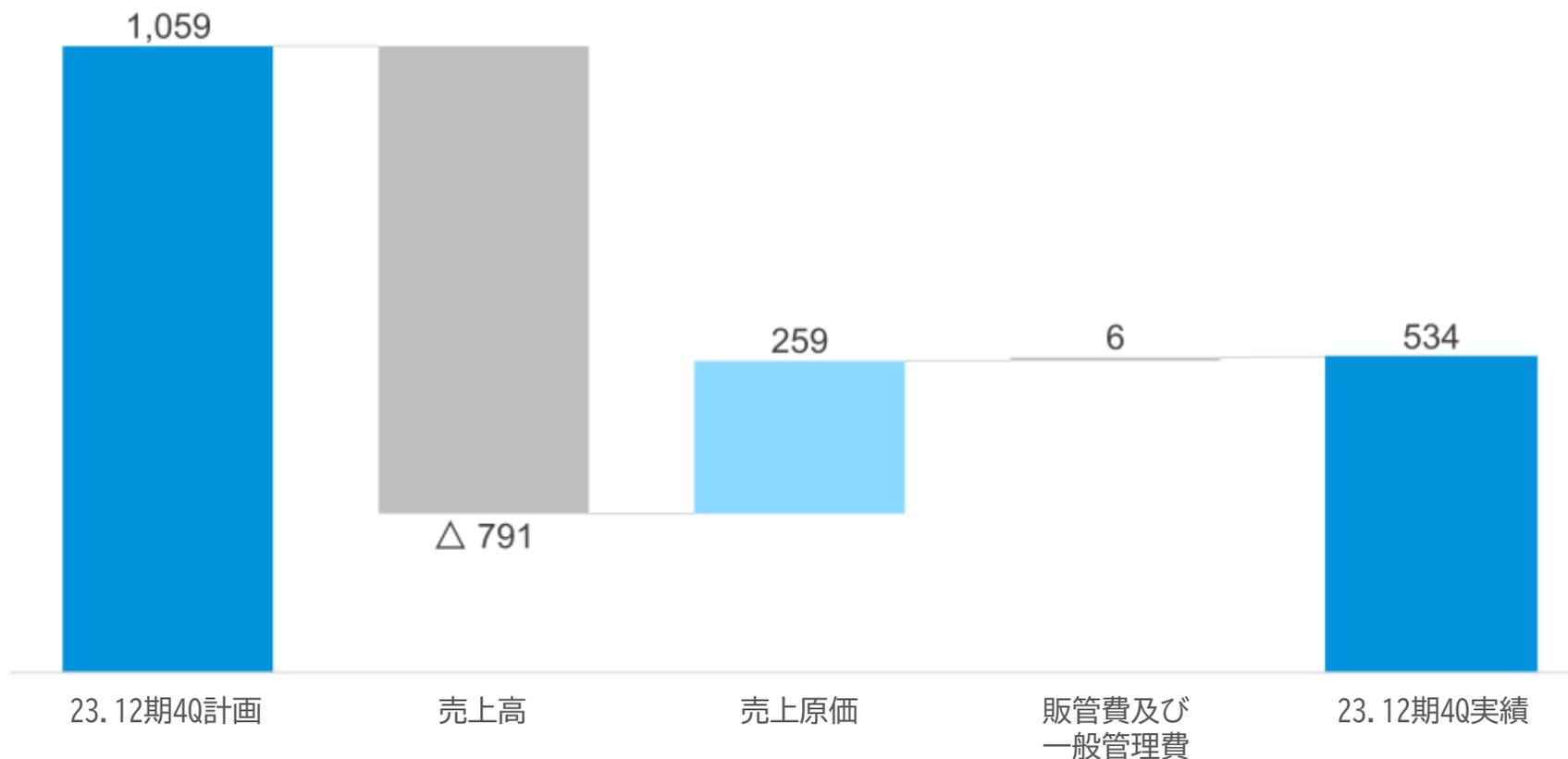
売上は減少したが、コストダウン、ミクス改善により損失は若干減少

(単位：百万円)



セグメント別
営業利益(4Q(10~12月)累計)の増減要因 (23/8時点の修正計画比) - 光部品・デバイス
一部顧客向けの光デバイスが想定外の売上減、利益も大幅に減少

(単位：百万円)

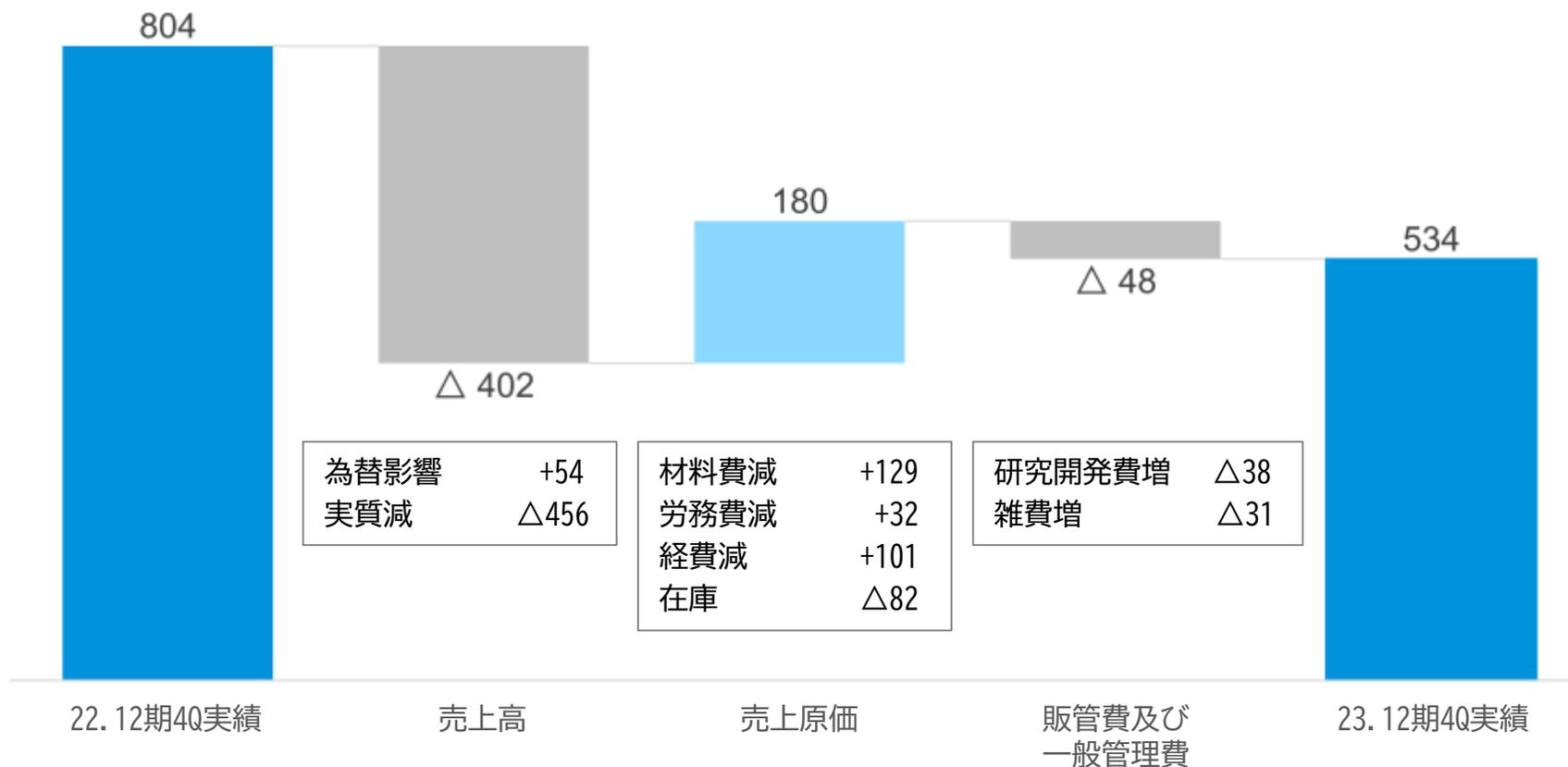


セグメント別

営業利益4Q(10~12月)の増減要因 (前年同四半期比) - 光部品・デバイス

前年同四半期に比べ、陸上用・海底用ともに厳しい状況

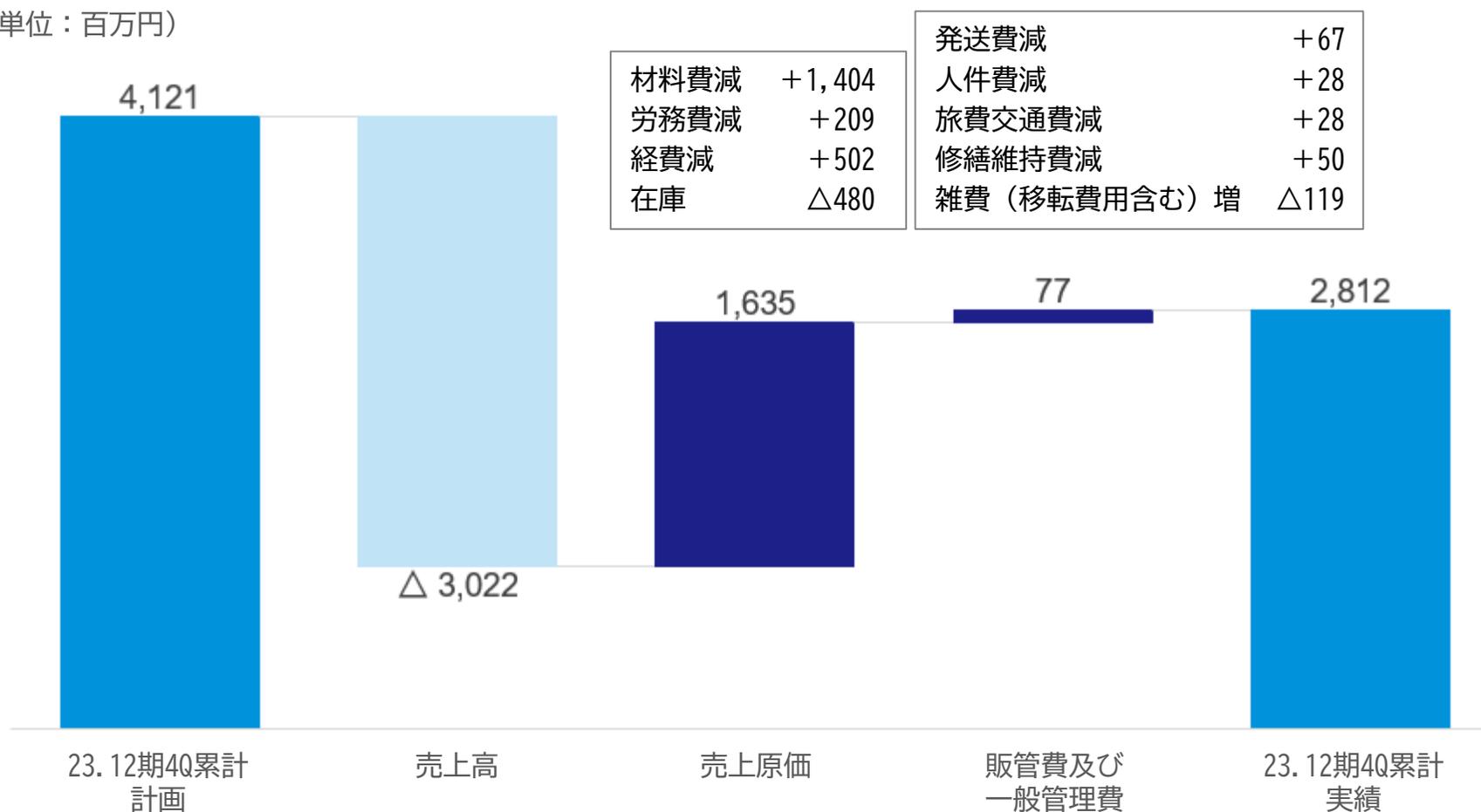
(単位：百万円)



営業利益(4Q累計) の増減要因 (当初計画比)

光部品・デバイスにおける円安等の追い風を受けるも、昨年夏以降の景況悪化の影響を受け、当初計画比30%強の減益

(単位：百万円)



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217